

16
143₁

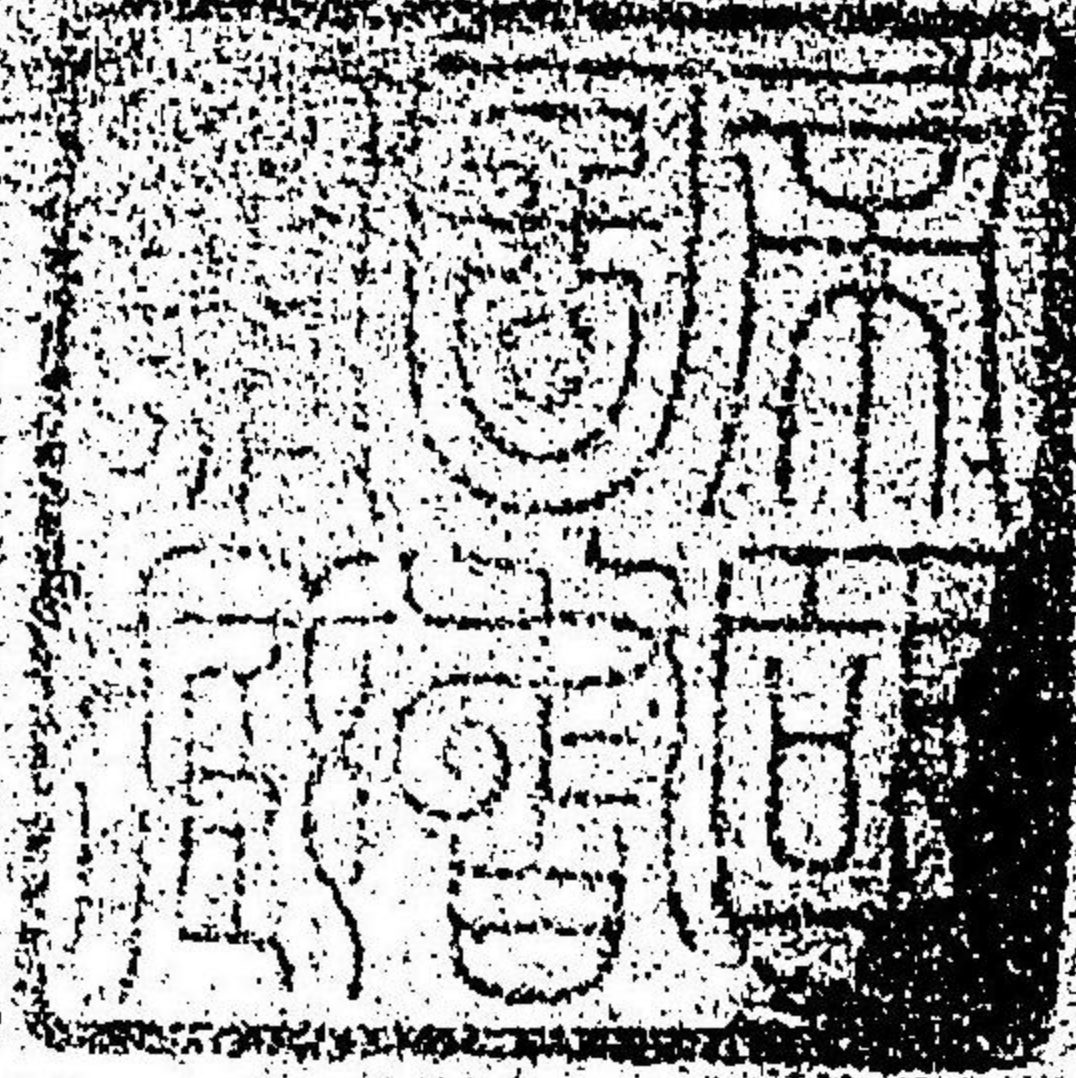
宇那為此

143

16
143

孝
行
錄
每
四
編

16-43



證 就

今 古

大正
4. 12. 7
購求

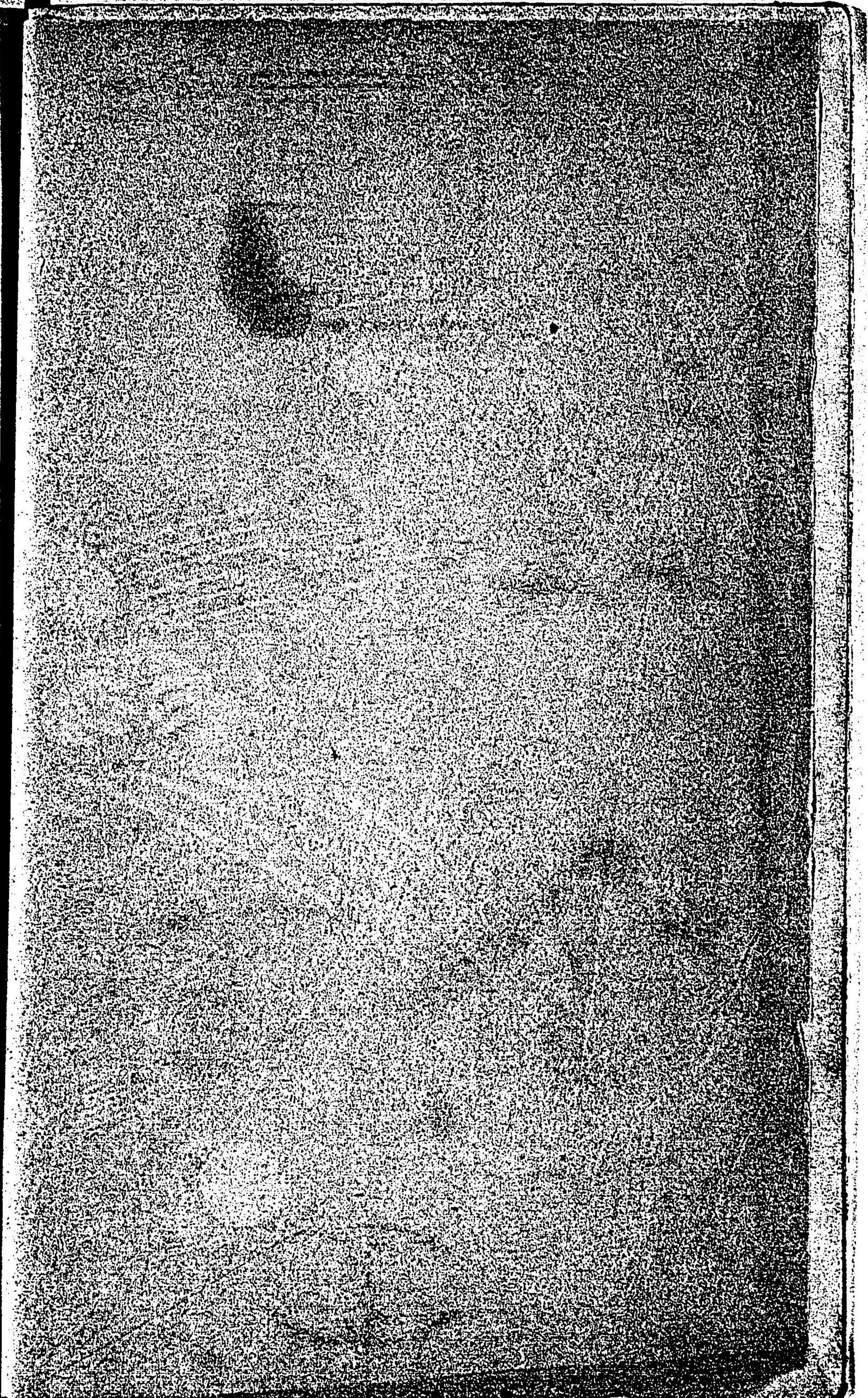
16-143



證 枕 目
今 古



大正
4. 12. 7
購求



明治丁未之秋

細川湖野



家庭教育と近頃もの——云の——小児
玩具をあたふ昔々の家庭教育なり小児の故
あき新——を求め昨のけふを交替引替す——
其知識を進むるも稍たこれぞ女児の手鞠玉
もつ遣羽子も體育と智育とを兼せし猶又
數理をの知りし手だてなり男児の紙寫は
舟馬の如き知體となり其まじじたまひを
養ふるもこの有益なる見戲もあふなり

清水晴風ぬし心を玩具の夢の三十年古きなり
夢となり都となり鄙となり異となり常となり
玩具を集めて玩しつゝ記しつゝ一冊の
うまひの友三篇を梓に上せ今又第四集を及ぶ
されども世の人ぬしを玩具博士と号しつゝ
家庭教師と号しつゝ其當を得んやとおもふ

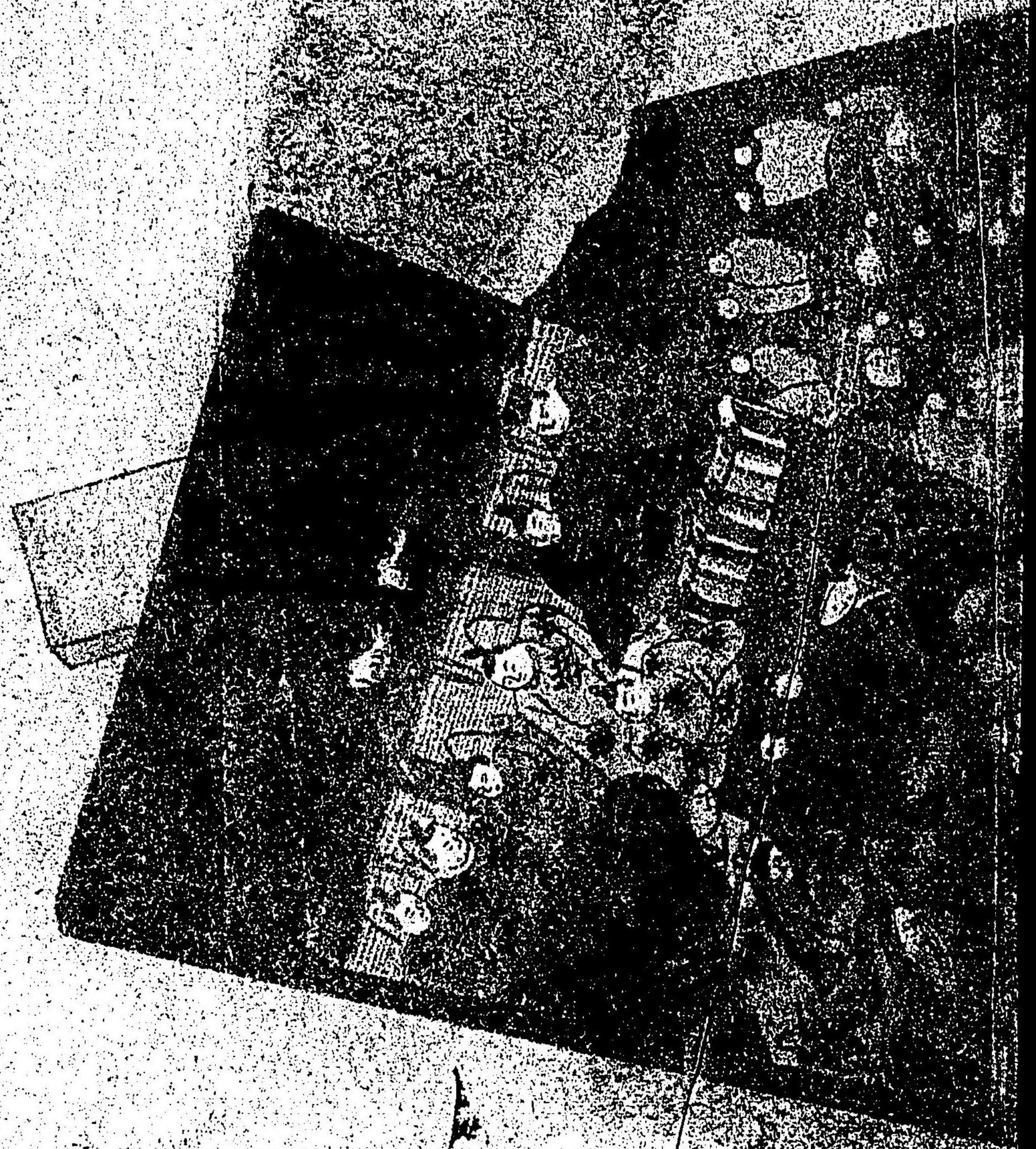
ア米中林

貞倉坊如常しらす



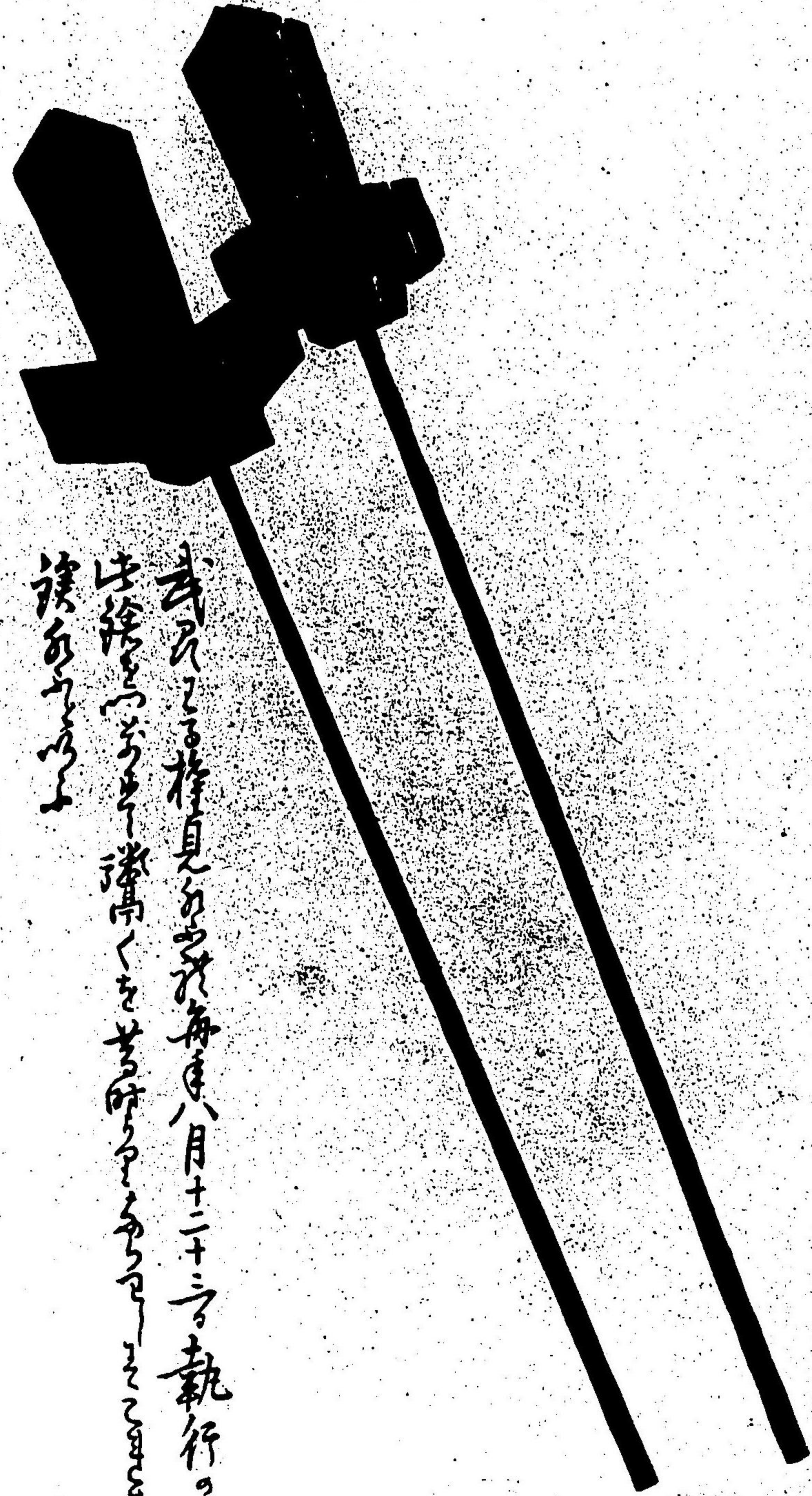
左葉の羽子板(左極上極目長と稱す)の
多府の以治屋の奥向と毎季二日月の夜ひし虫極あり

羽子板を用ひし
例とせり

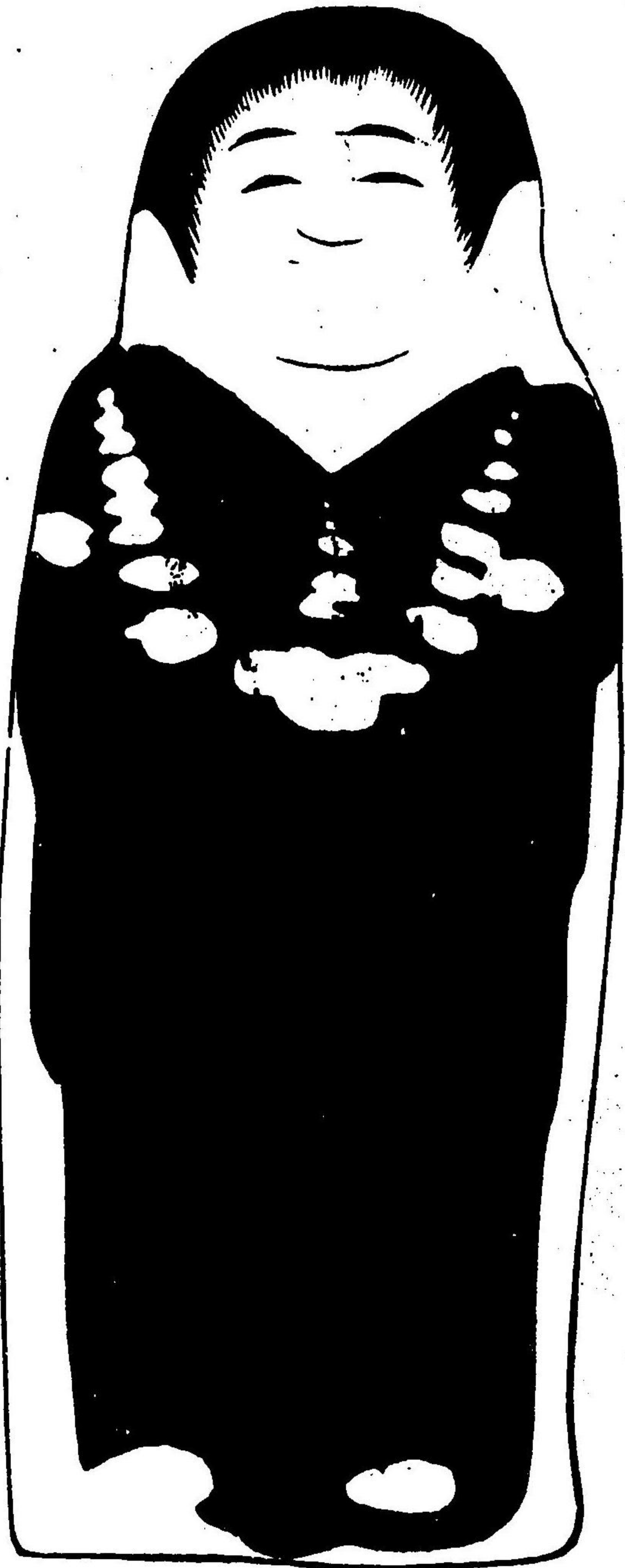




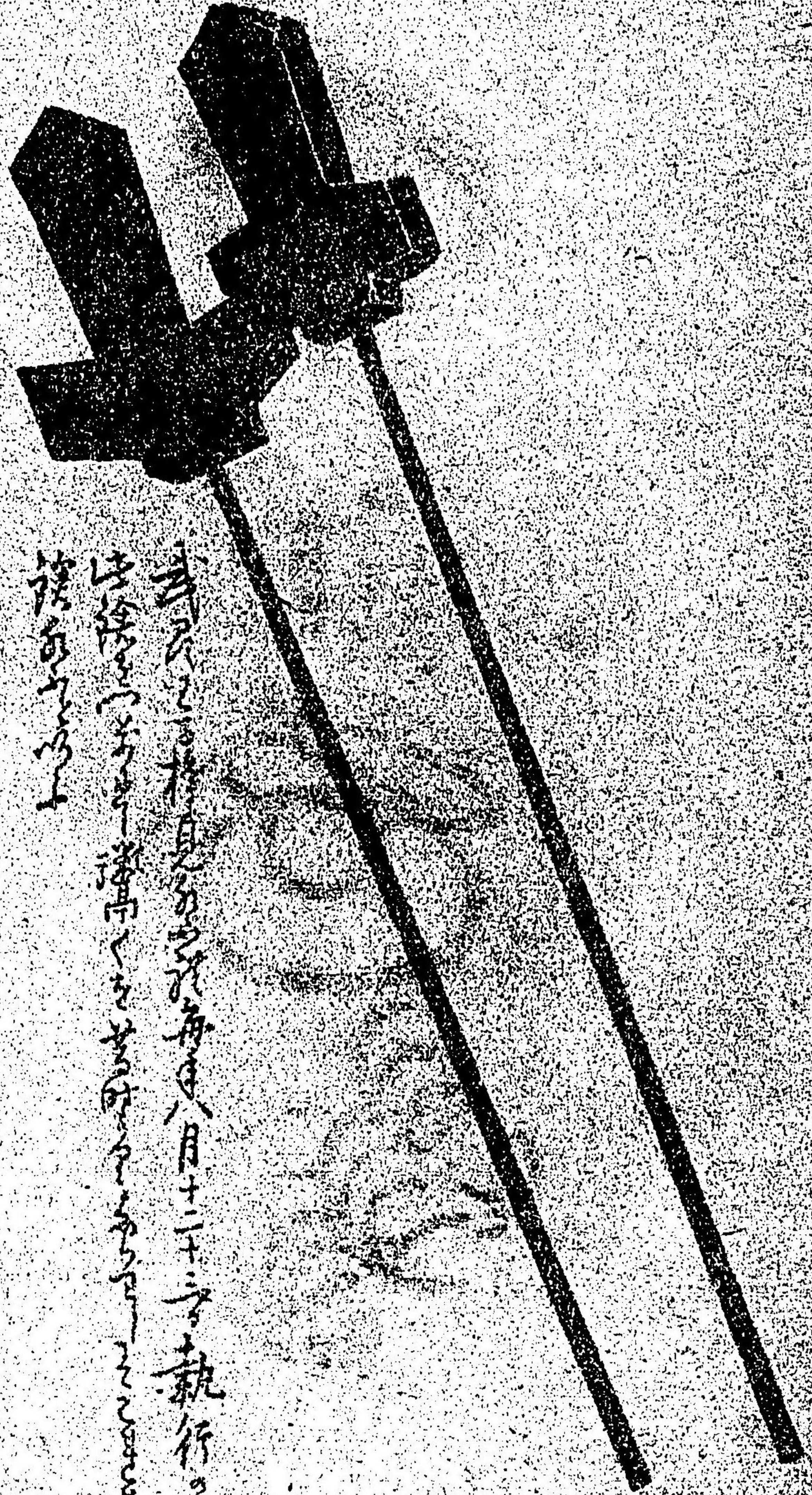
此の津屋の娘は若くして



此の津屋の娘は若くして
八月十二日執行の時
は後を引つて津屋の娘は若くして
津屋の娘は若くして



1
一 坂本津の長子 張子 物辰 叔父 之 入 形



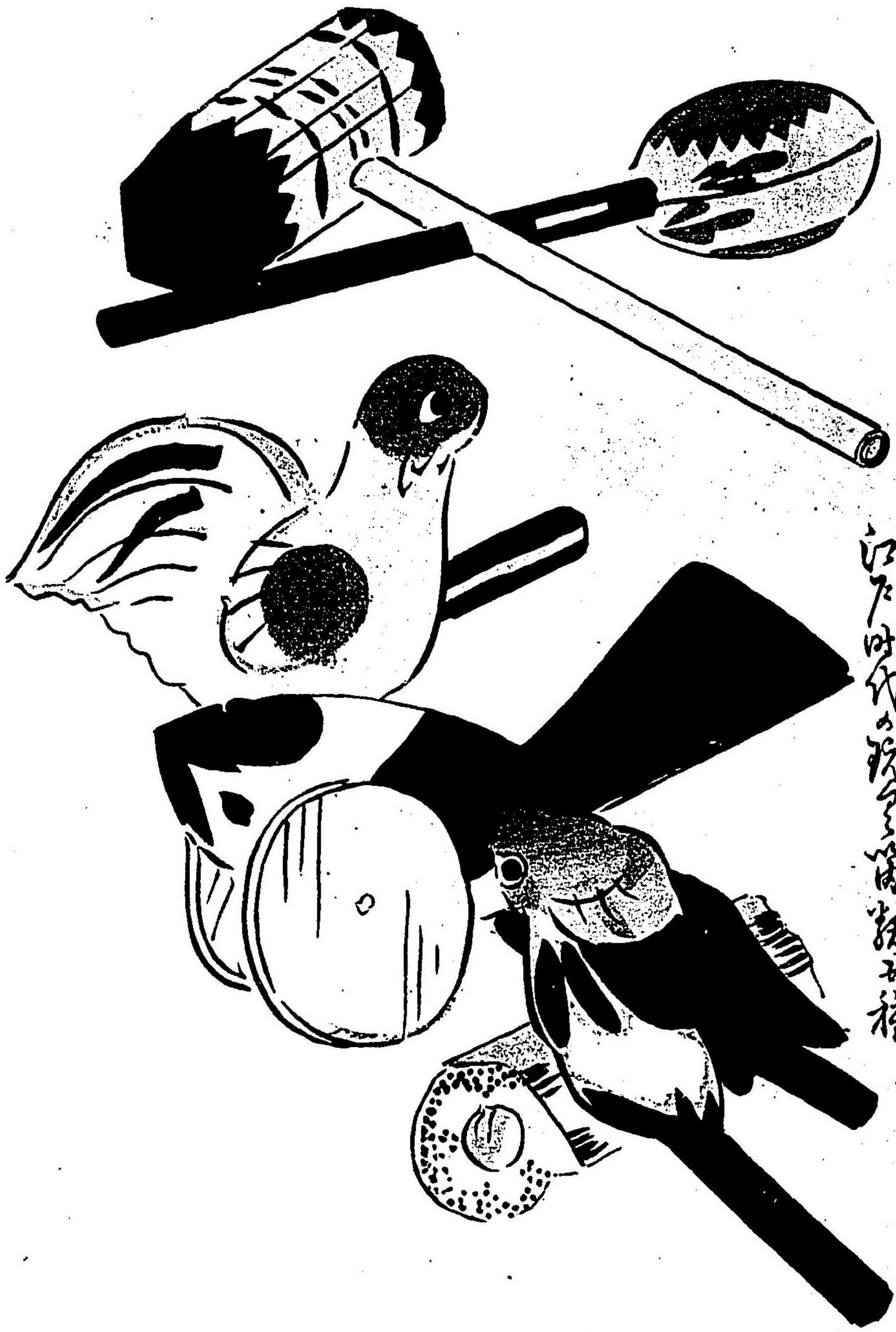
此の杖は 見立の杖 毎八月十二日 執行の時
は 杖の 上から 旗を出す 杖の 上から 旗を出す
杖の 上から 旗を出す

大坂天目村の牛
形骸成乾のまは牛
を奉りて



瀬田子板川の牛車

江戸時代の牛車と笛吹子種





出羽村田城西十二里梅澤村の羽子板



羽子板の國
林田の産物
靴衣の猫

新潟山田の産物
信濃三種



新撰 日本書紀 卷之八



新撰 日本書紀 卷之八
新撰 日本書紀 卷之八
新撰 日本書紀 卷之八

新撰 日本書紀 卷之八
新撰 日本書紀 卷之八

新撰 日本書紀 卷之八
新撰 日本書紀 卷之八

琉球國の天子と王子の衣の入れ



琉球國の天子の衣の入れ

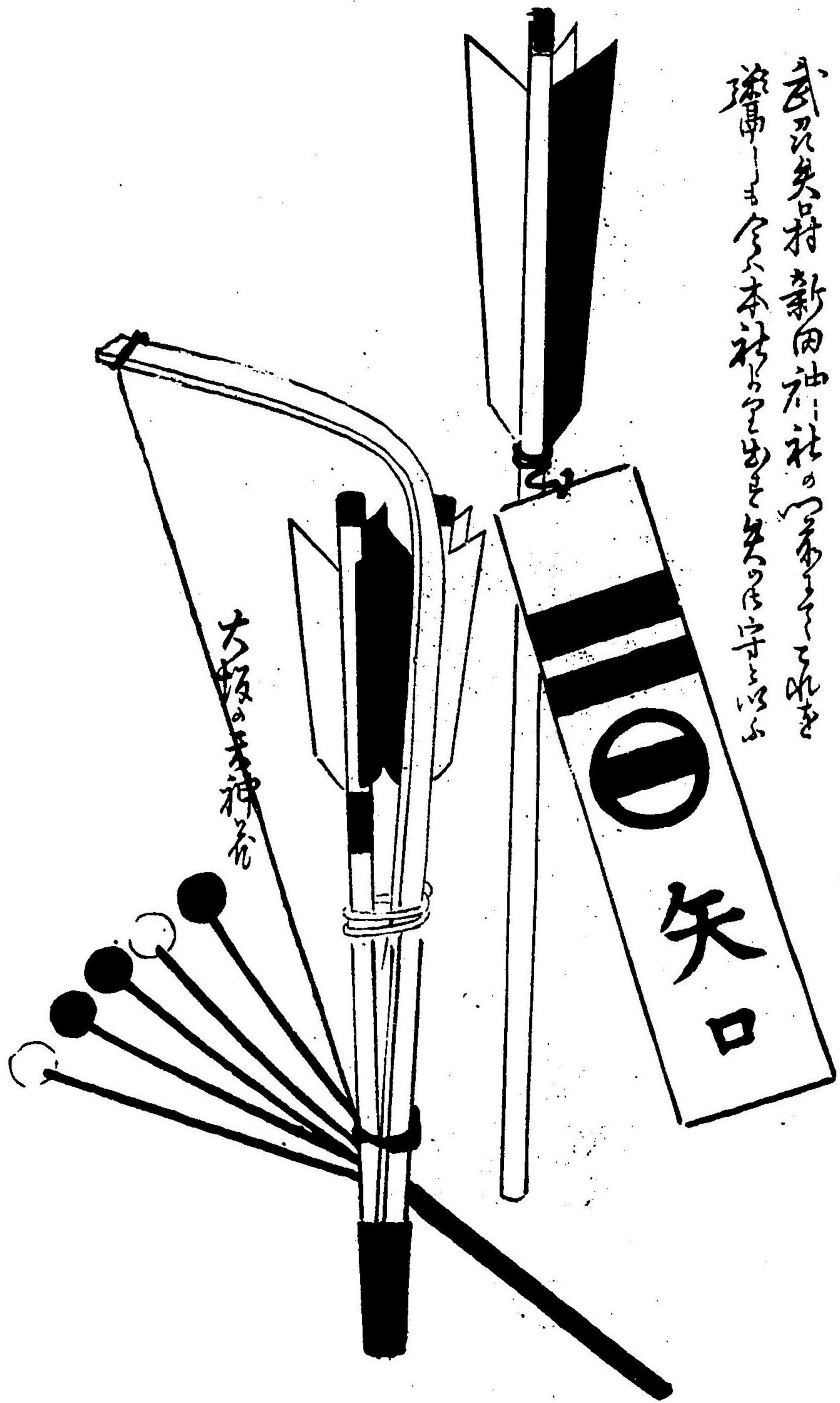
琉球國の王子の衣の入れ

琉球國の王子の衣の入れ

沖波もたせり
波層方の真白
そとあせり 隆也



武蔵矢野村新田神社の御神事
御用も今日本社に御用も今日本社に御用



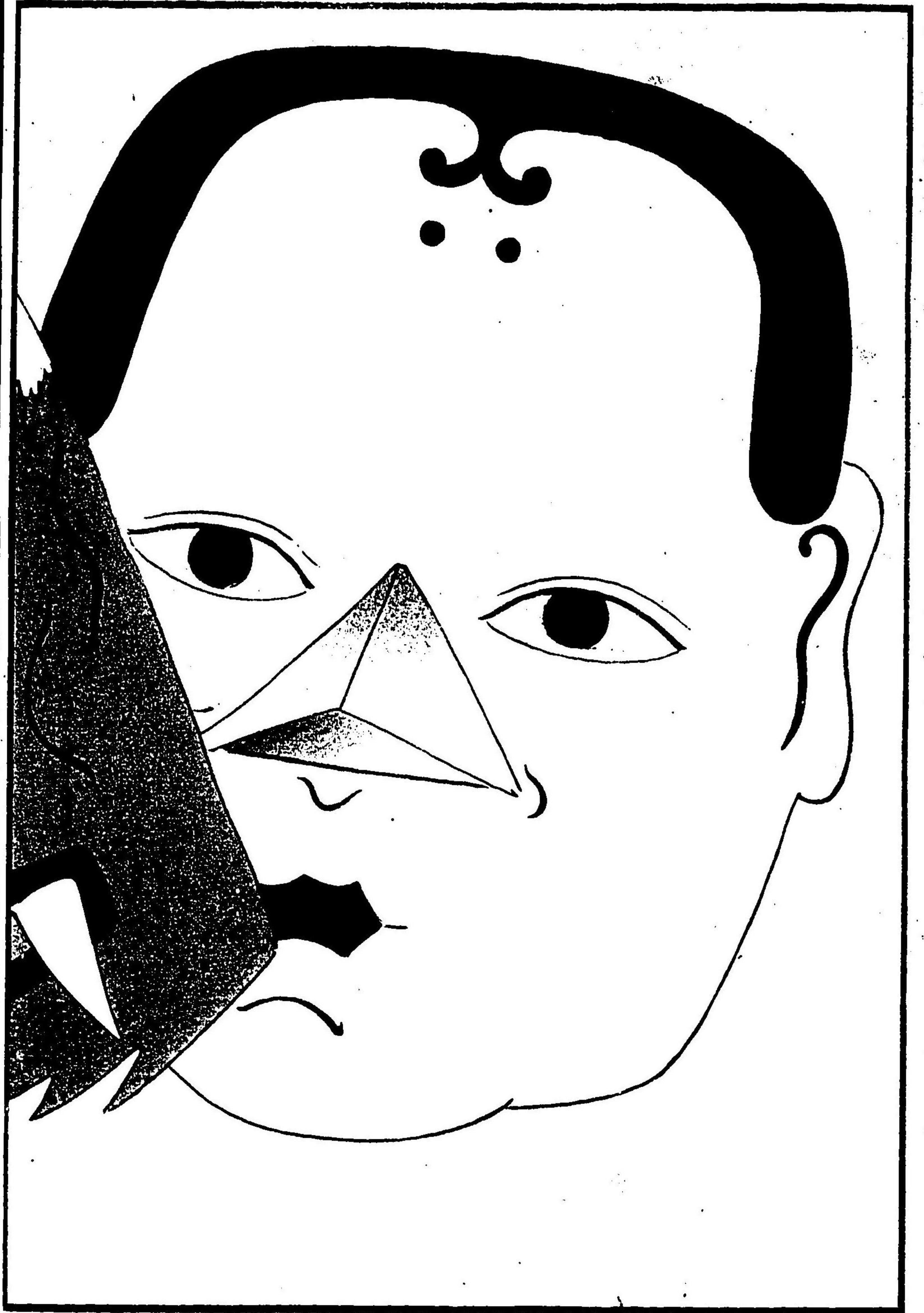
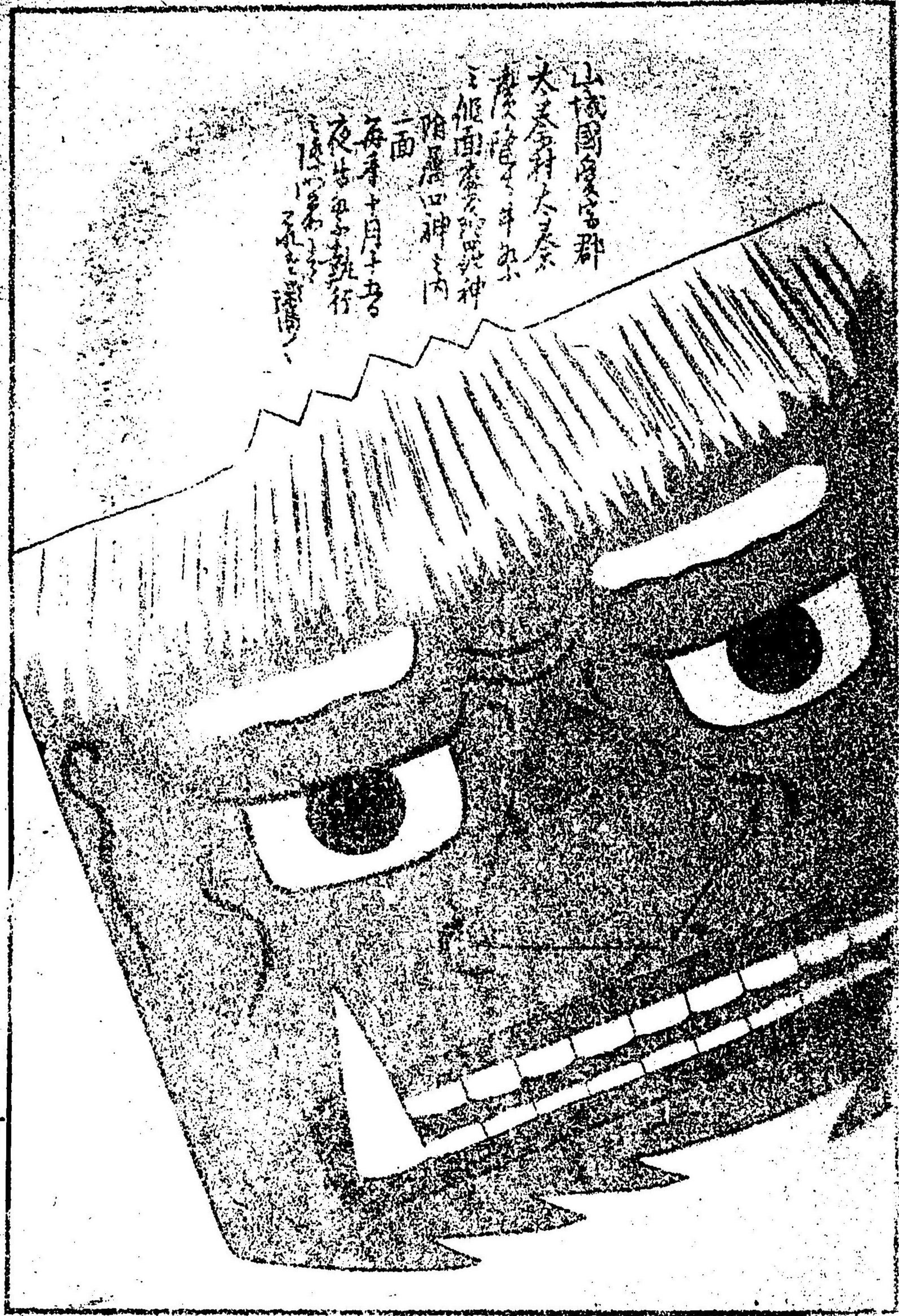
大坂の天神

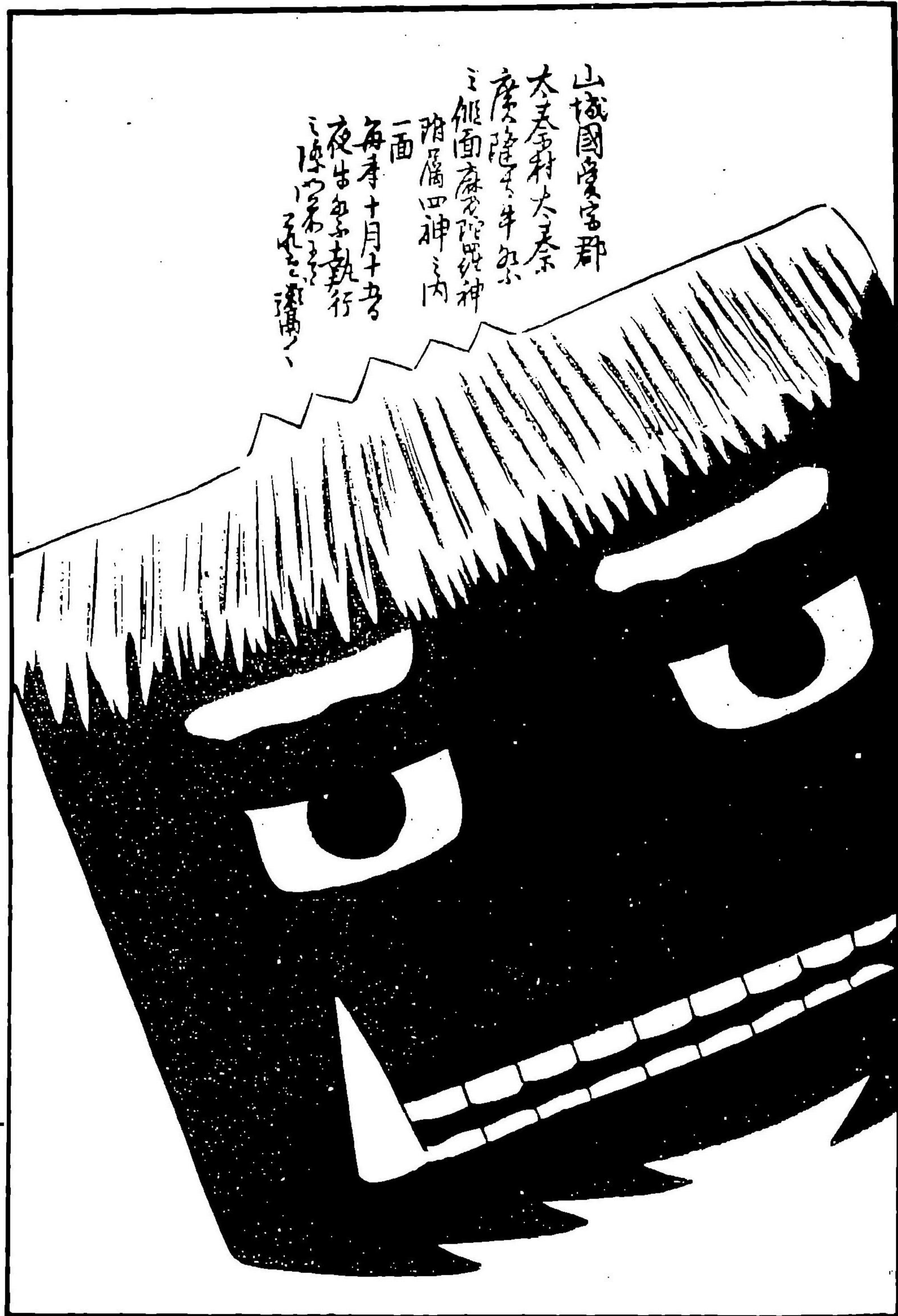
江戸時代の
道具之様



大坂四天王寺にて毎年七月
の御祭に式執行の時
は其器十二個を寺内へ飾
りて見物に供せり此の
式跡より後傳へ自家
の御祭に用ひて居り







山城國愛宕郡
大友寺村大友寺
座落於牛久保
之能面麻呂院祀神
階屬四神之内
一面
毎年十月十日
夜廿九日執行
此儀名曰
三日月夜



山姥國男山八幡宮にありて遊魚
錦鯉の鯉

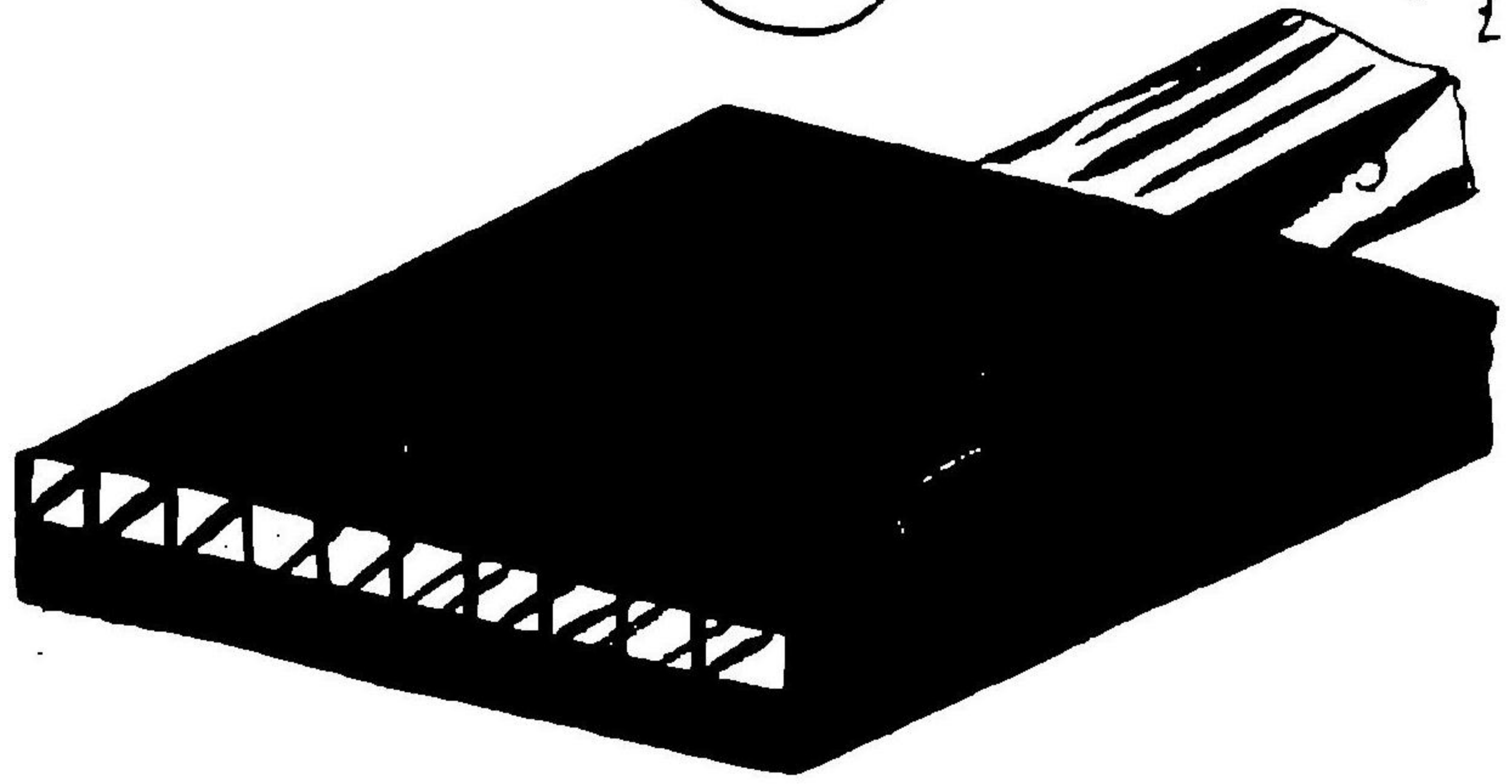


國宗金澤藩主
後三月三日
御日探訪
全津

肥後不
社
本名首

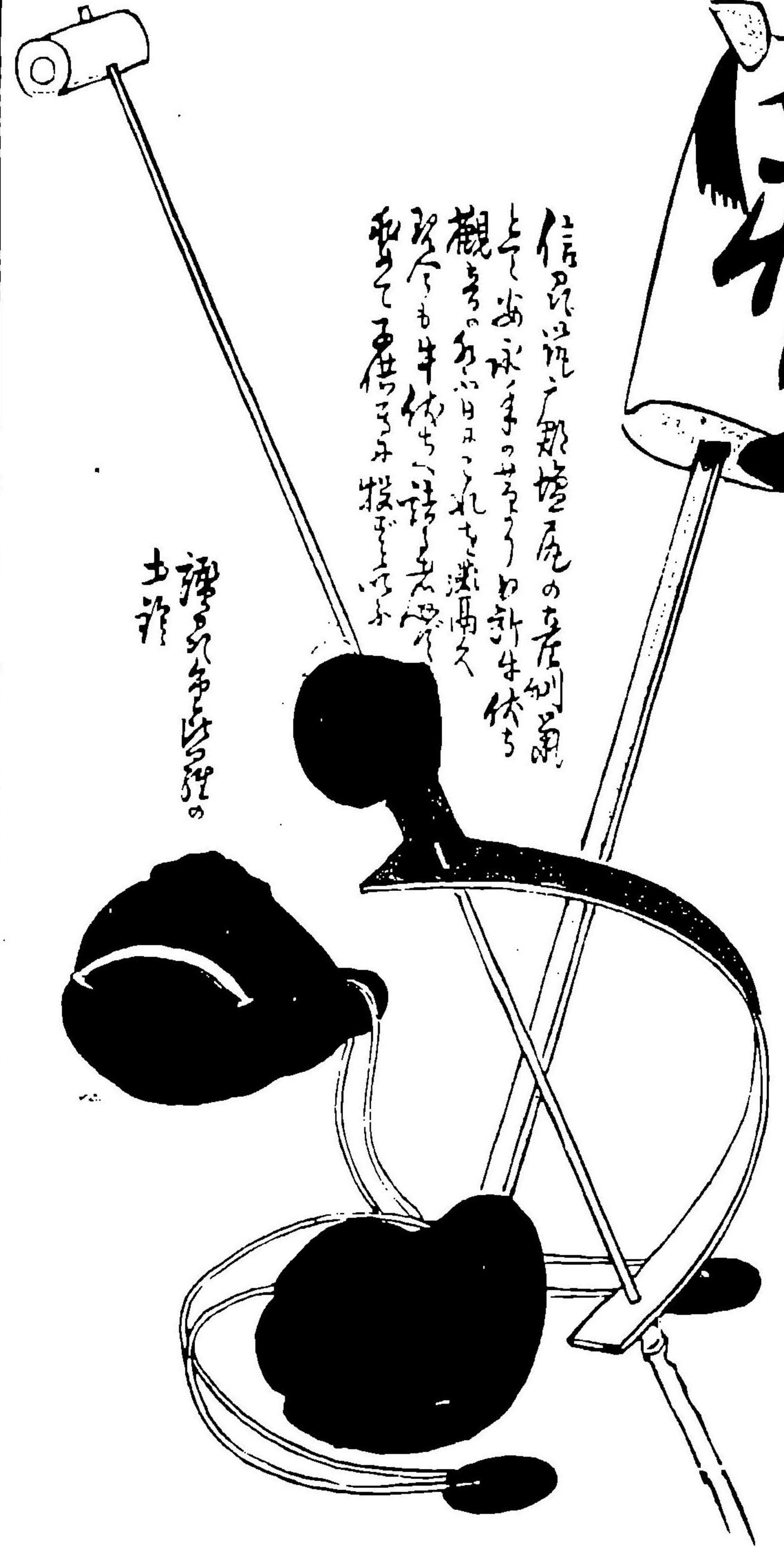


松浦の... 中村
大... 田... 神
社... 旧九月...
ハ... 執行...
... 村... 氏...
... 自...
... 氏...



原... 田... 馬... 田... 市...
... 氏... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏... 氏...

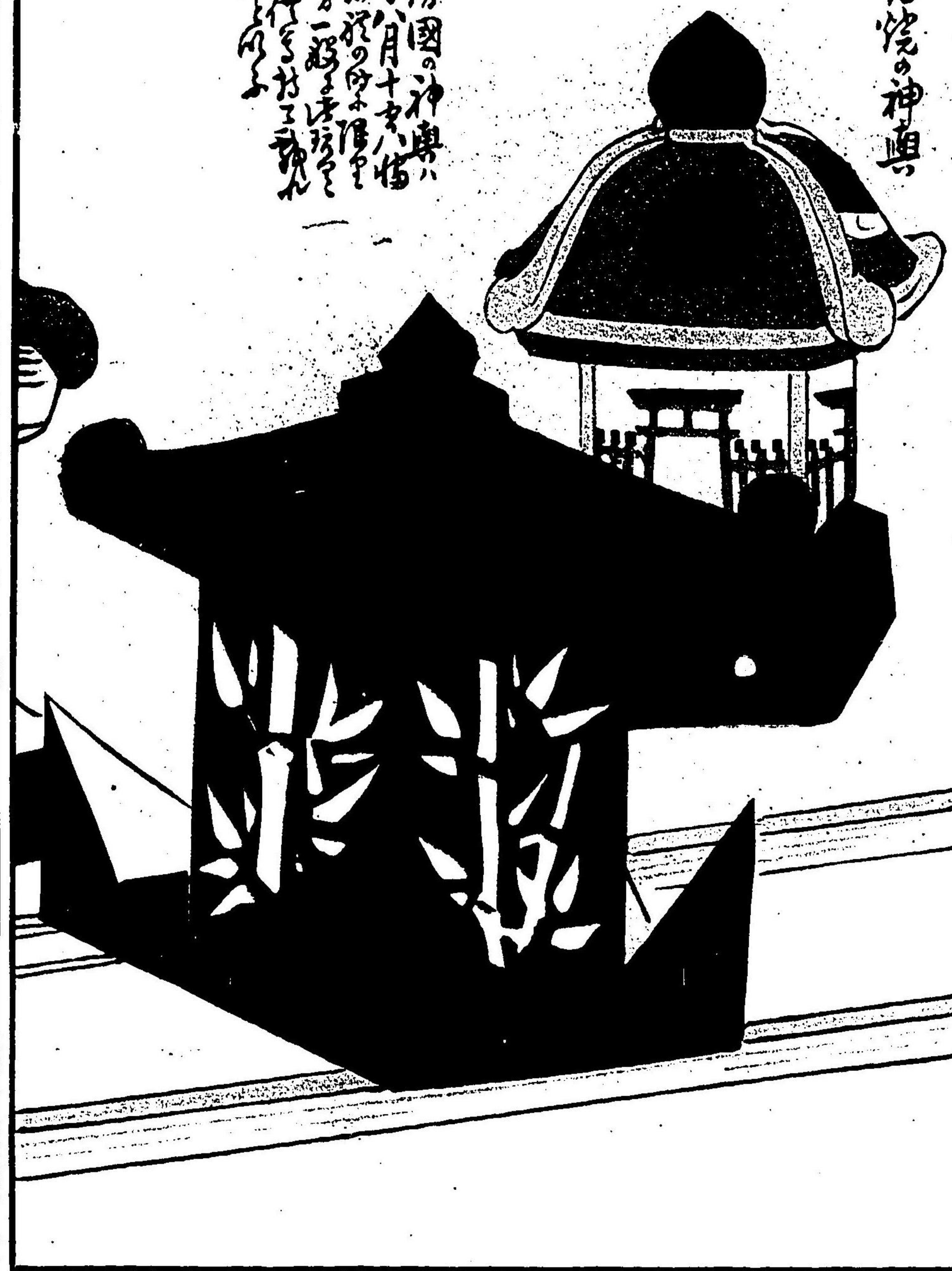
信... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏... 氏...
... 氏... 氏... 氏... 氏...



氏... 氏... 氏...

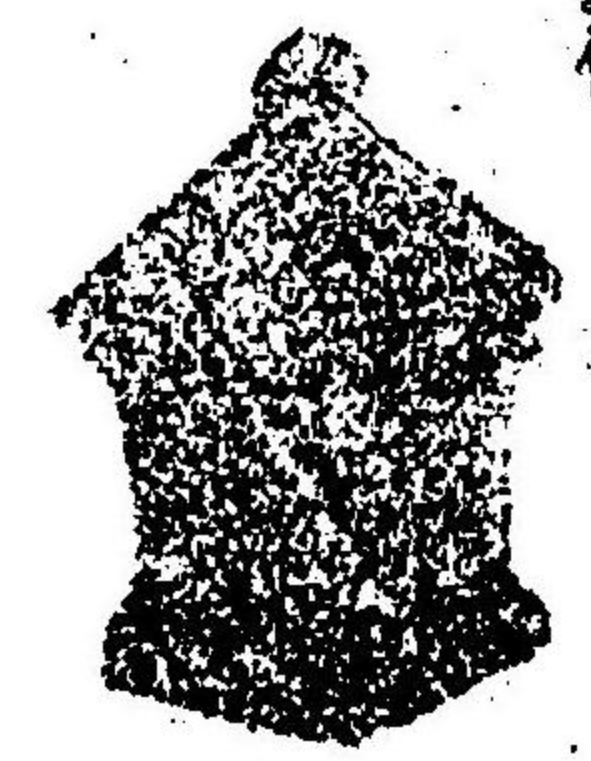
伏見院の神輿

安房國の神樂
毎年八月十日
字名は神樂の
同地方一帯に
をまつたてり
たてり

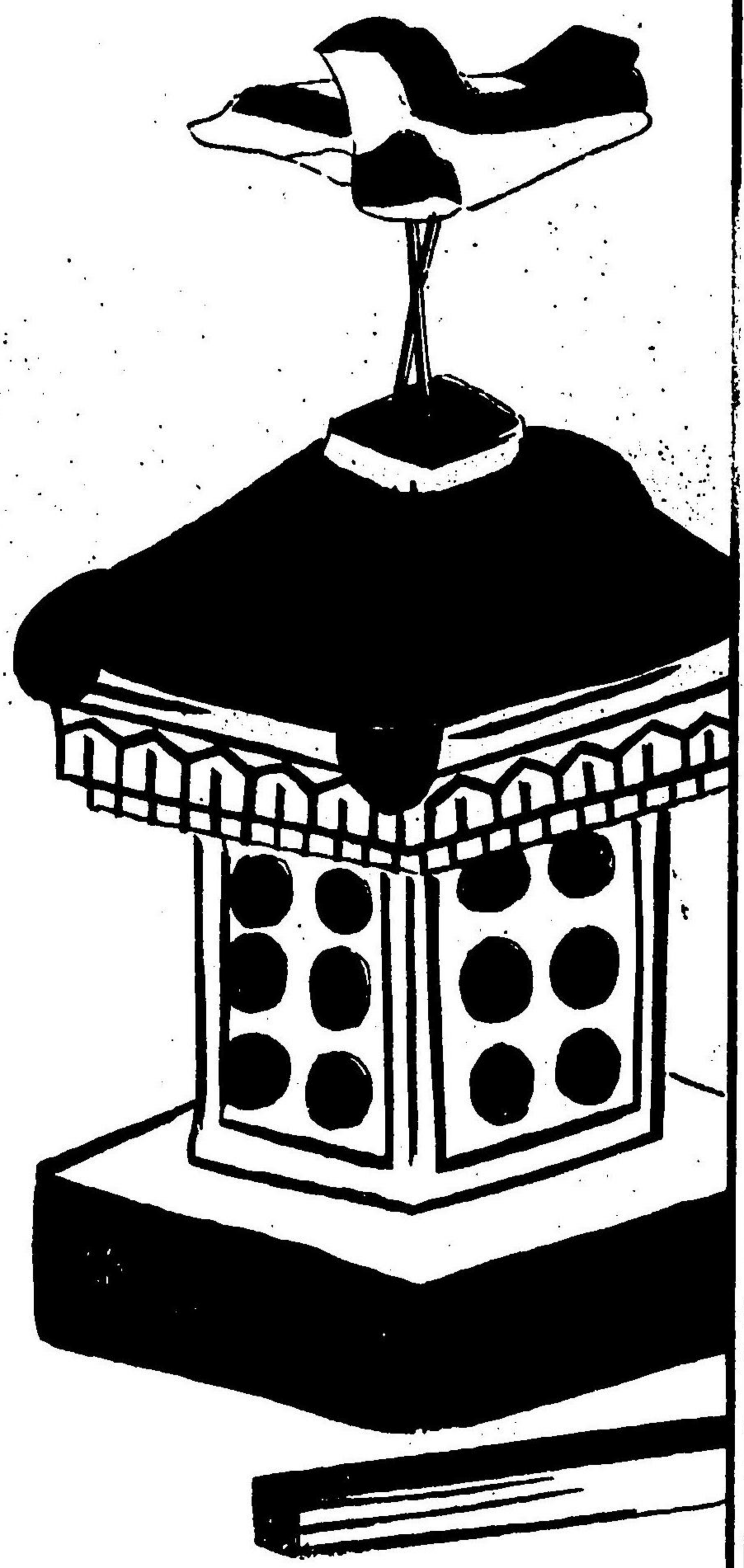


伏見院の神輿
天正十一年

伏見院の神輿
天正十一年



江戸時代の
天子標といふ



江戸時代
天子標



休見院の神輿

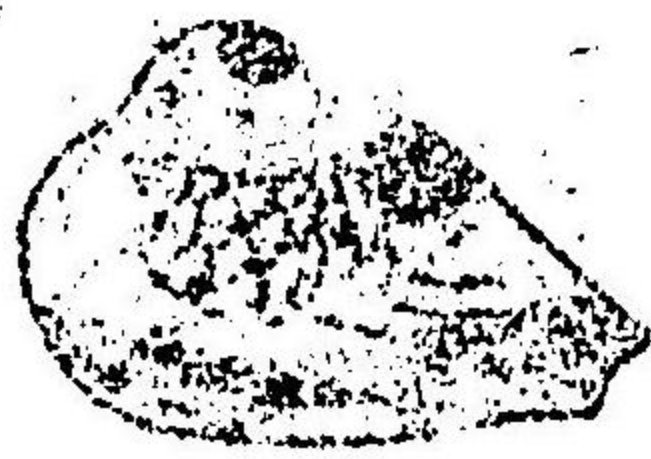
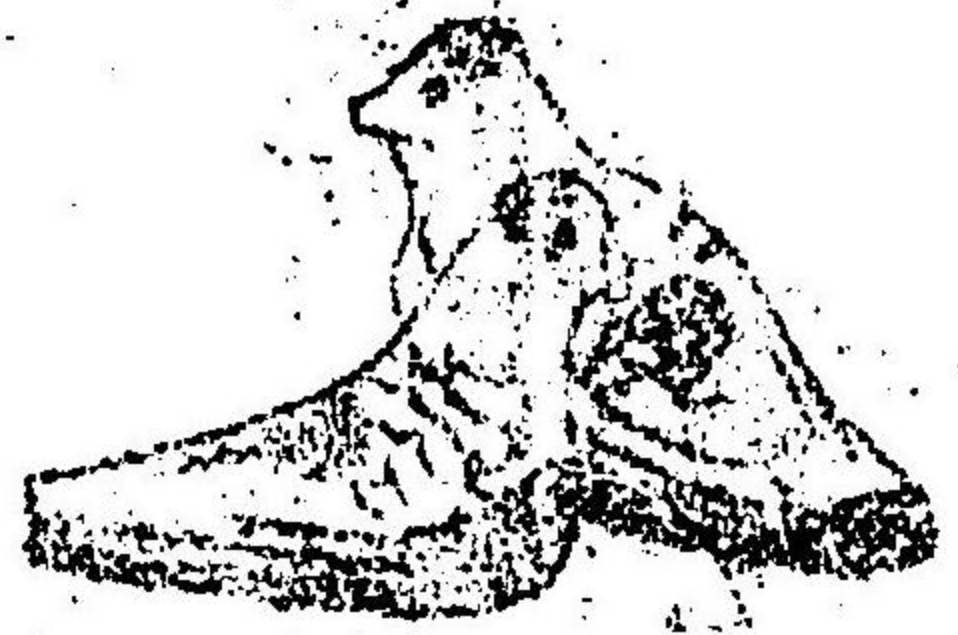
平房因の神輿
毎月八月十日
宮崎の神輿
宮崎の神輿
宮崎の神輿
宮崎の神輿



三河國家飯取
 少飯井村
 多里神社名所
 毎年四月十日
 舞面を舞う
 日は城のまき
 空の内より
 出るまが同形
 拍子も同形
 とある所の老
 子比る長も
 飛ぶ



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



三河國の國
 少飯井村
 多里神社
 毎年四月十日
 舞面を舞う
 拍子も同形
 とある所の老
 子比る長も
 飛ぶ

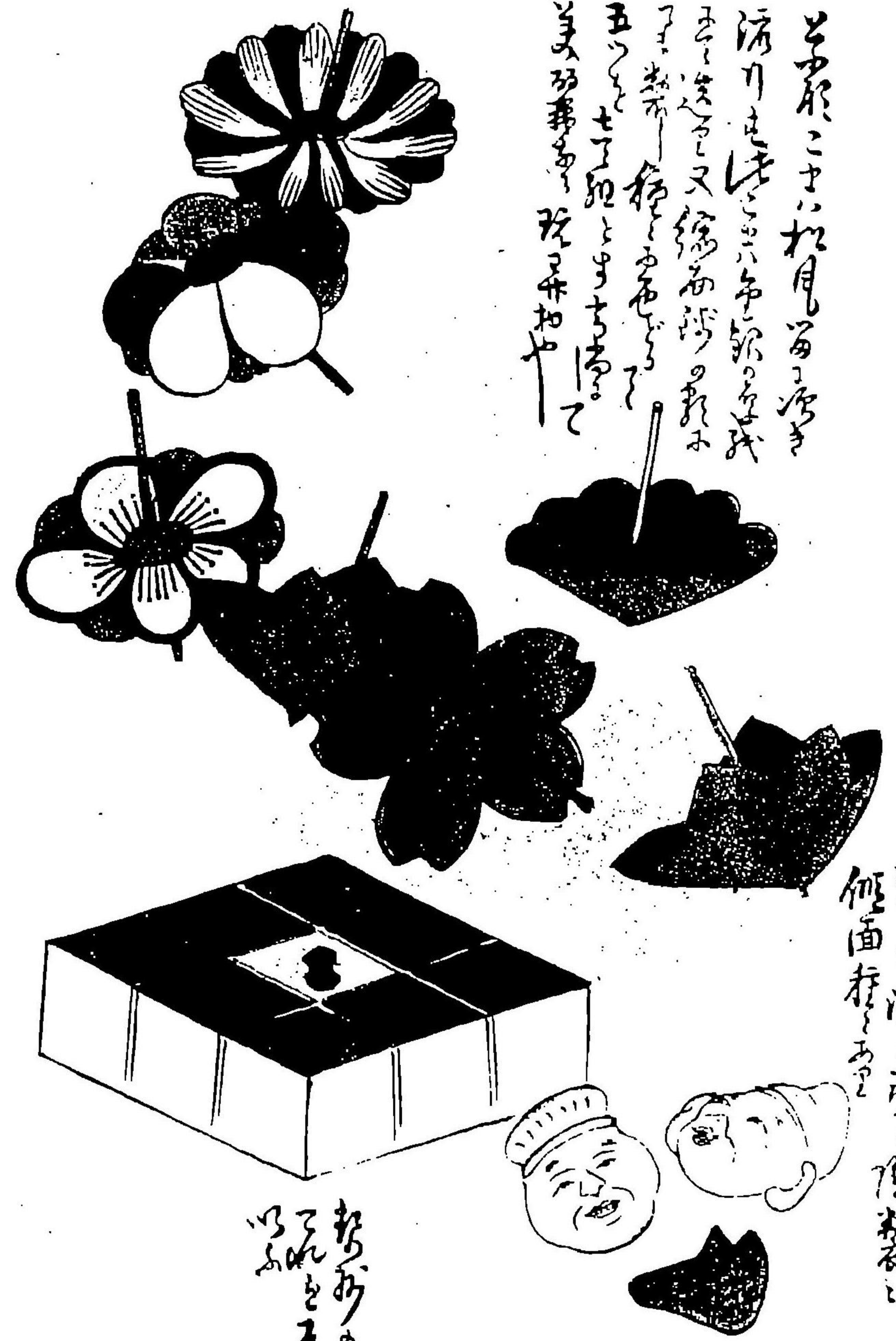
大坂表土偶
寛政享和表の物

中不道子人形
は新今、絶好



江戸時代は土偶を
高京焼又三入京入形し

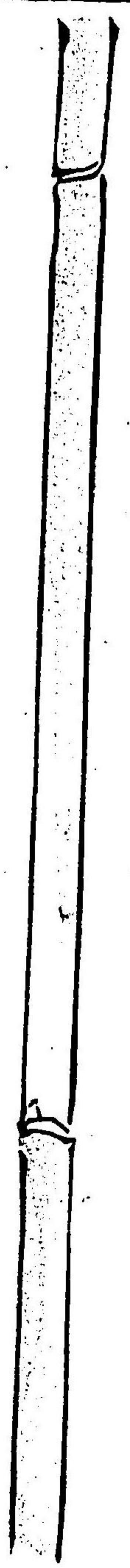
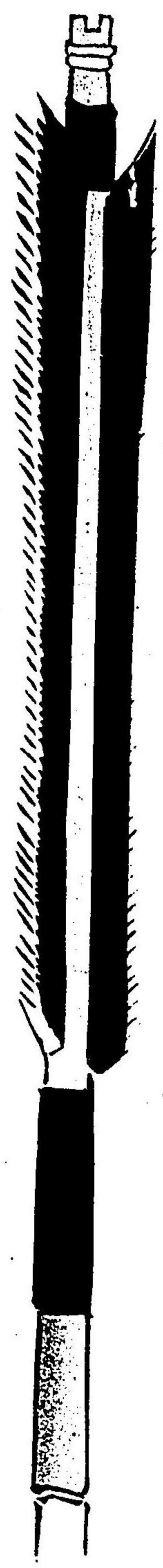
土形こまに松月あまき
流りしは...
また...
五...
美...
...
...



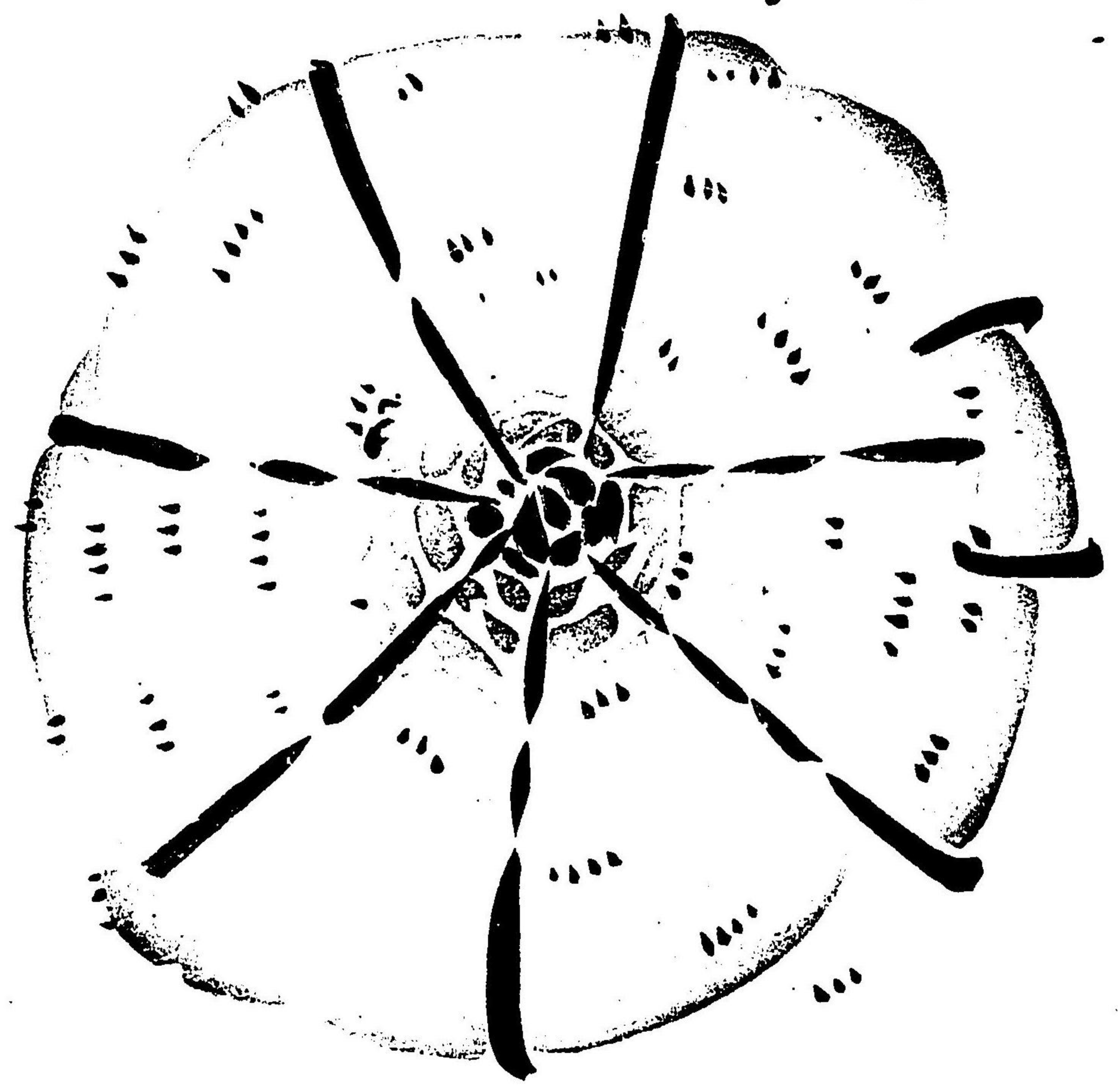
江戸時代の子と陶土衣
何面持てあり

おひあつた
これとま
...

古刀
 冬河國賀茂郡の民間に蔵ありしもの
 予に於て得て之を射るに用ひしに
 其の長は三尺餘あり



古刀
 備後國福山に
 ありしもの
 是を射るに用ひしに
 射るに用ひしに

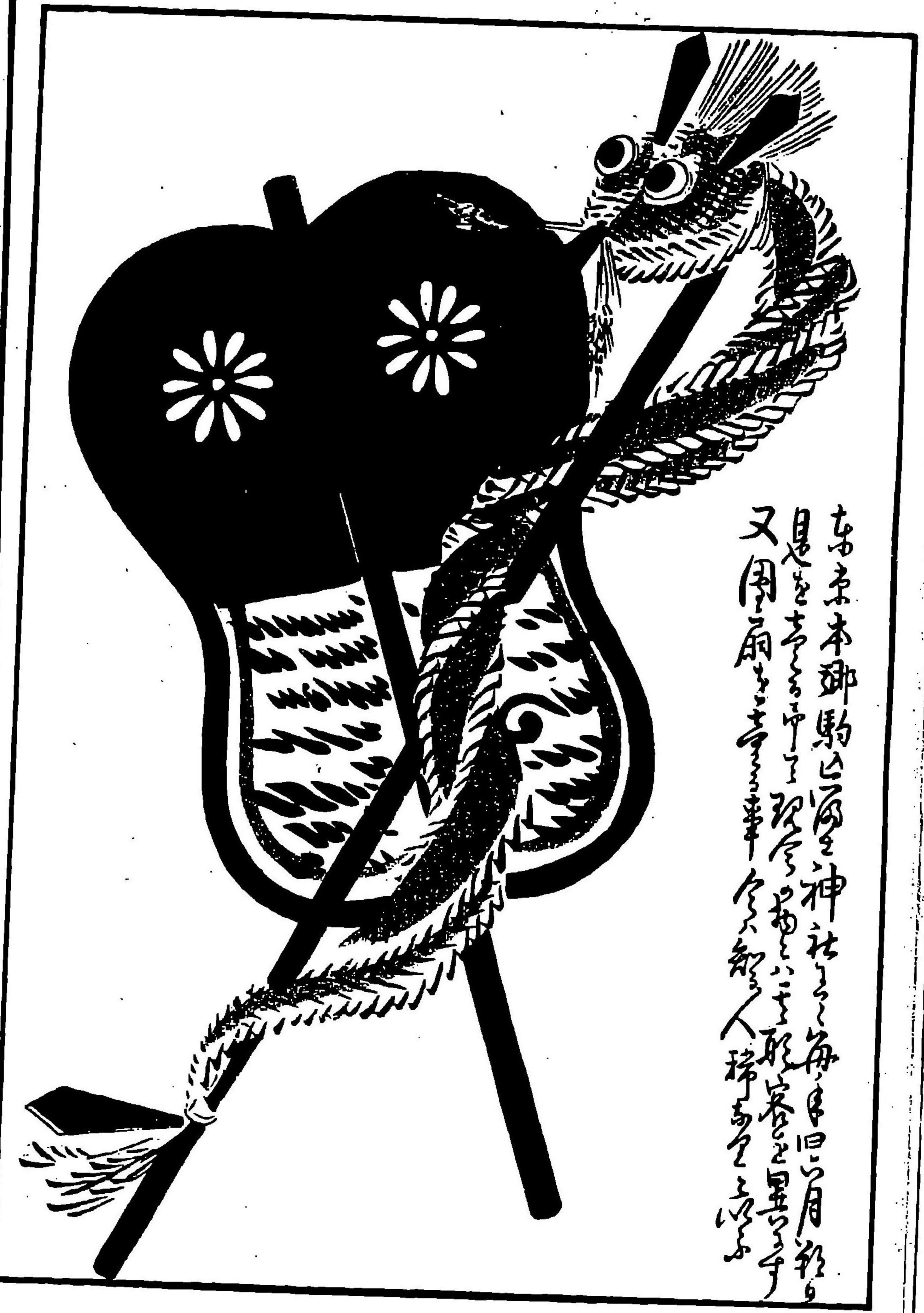




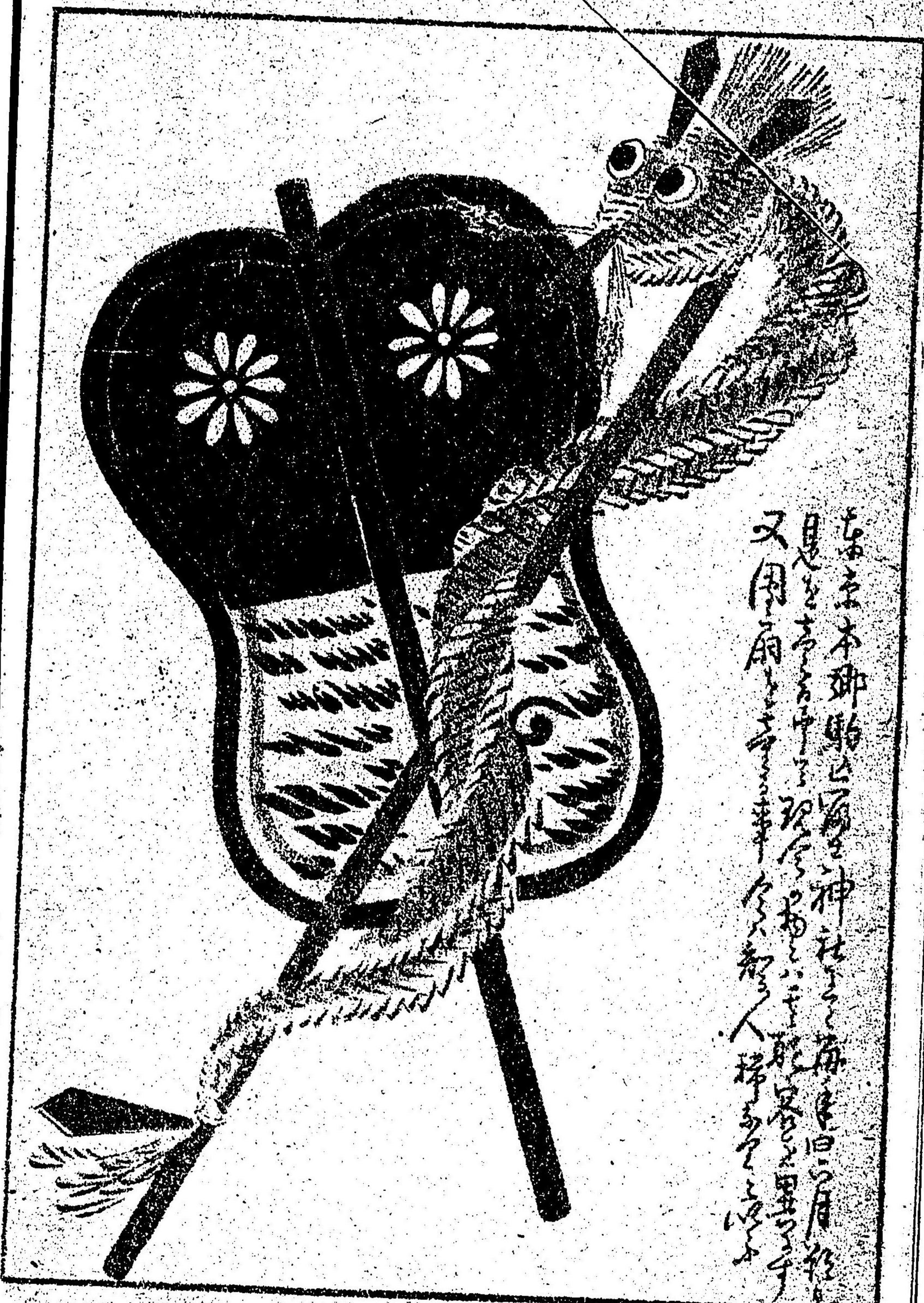
甲子年... 毎月... 五月...

甲子年... 土鈴...

甲子



東京本郷駒込の神社... 毎月... 四月... 又用...



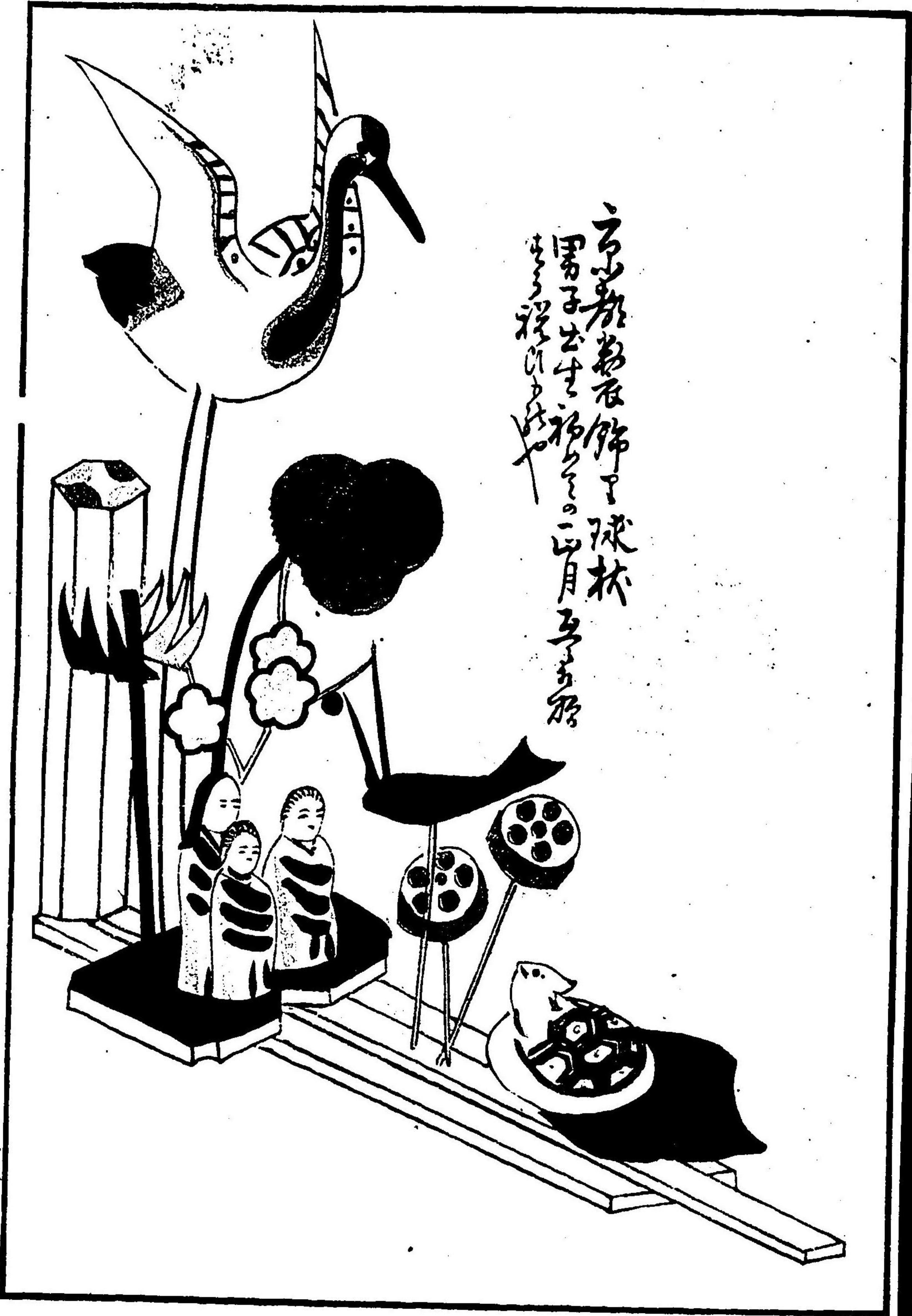
本邦野鳥の神は毎年五月五日
 見物する中に見物する人等
 又用角の神は毎年五月五日

甲子年存中より毎年五月五日
 見物する中に見物する人等

甲子年存中
 見物する中



甲子年存中より毎年五月五日
 見物する中に見物する人等



七夕の夜に飾り球林
 男子は七夕の夜に
 七夕の夜に飾り



元禄寺の御守
 若而命

七月の夕暮に浦下
 五月の夕暮に浦下
 見よとて花見

立雛ハ市販の形氏
 起シテ又更ニあるニ近
 昔ハ子運子運
 銭飾と云ハ後ニ係
 有ル立雛と云ハ化
 也ト云ハ



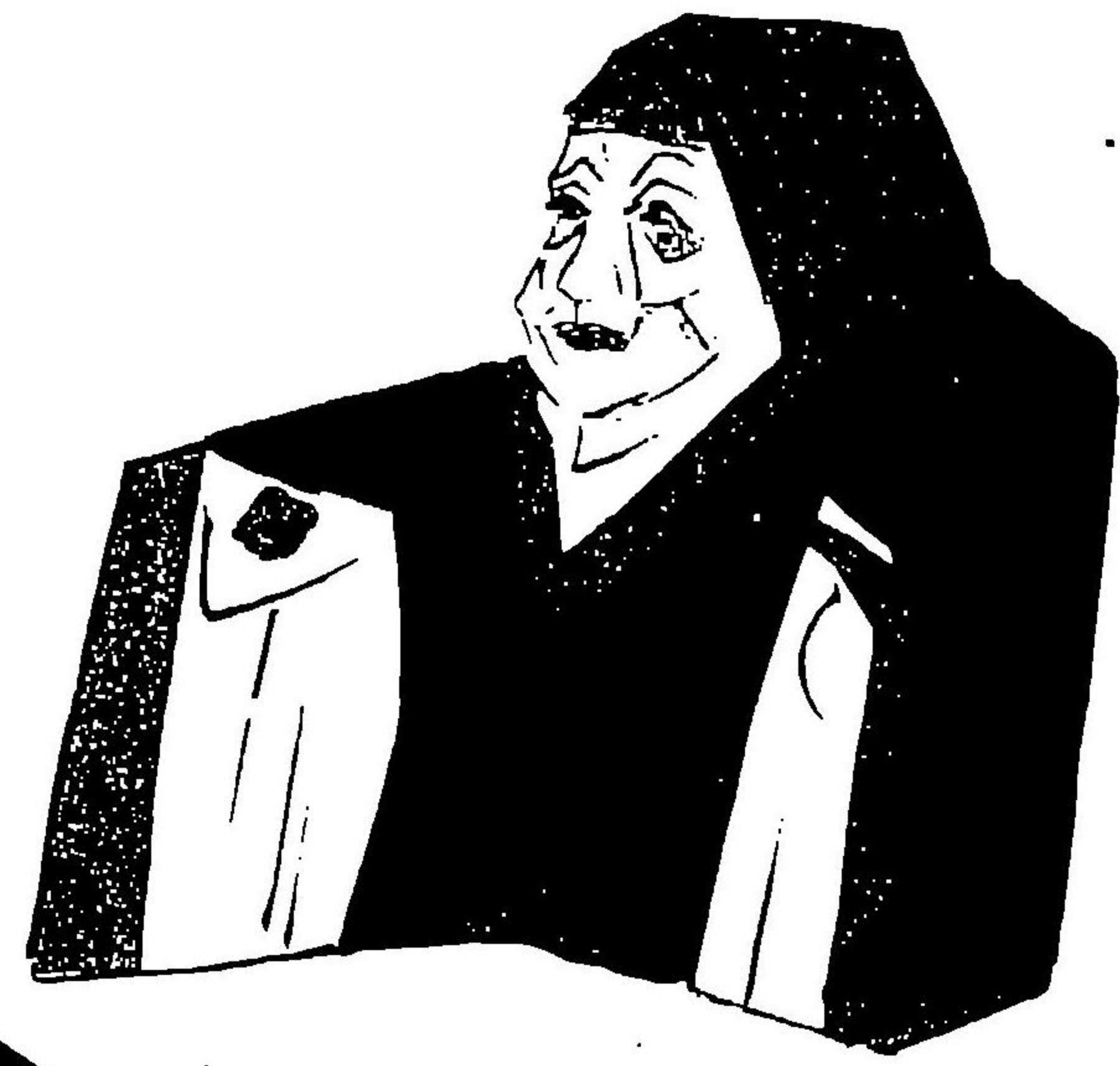
古来ノ良人形
 形氏ノ所出
 至リハ後ニ係
 有ル立雛と云ハ化
 也ト云ハ



古物衣を良人形に
 古物衣を良人形に
 古物衣を良人形に
 古物衣を良人形に



古物衣を良人形に
 古物衣を良人形に
 古物衣を良人形に
 古物衣を良人形に



山城の
 茶の
 主人

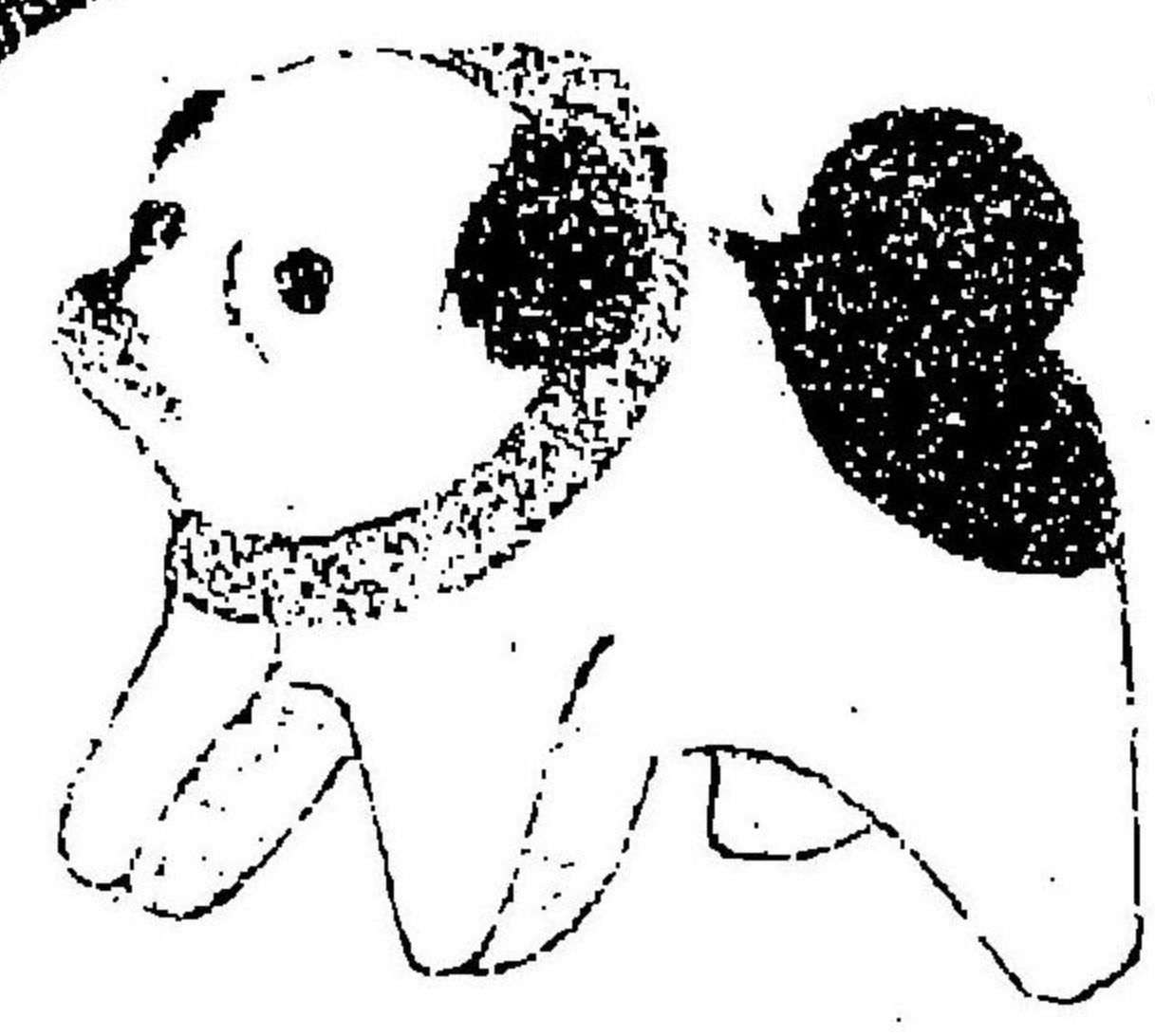
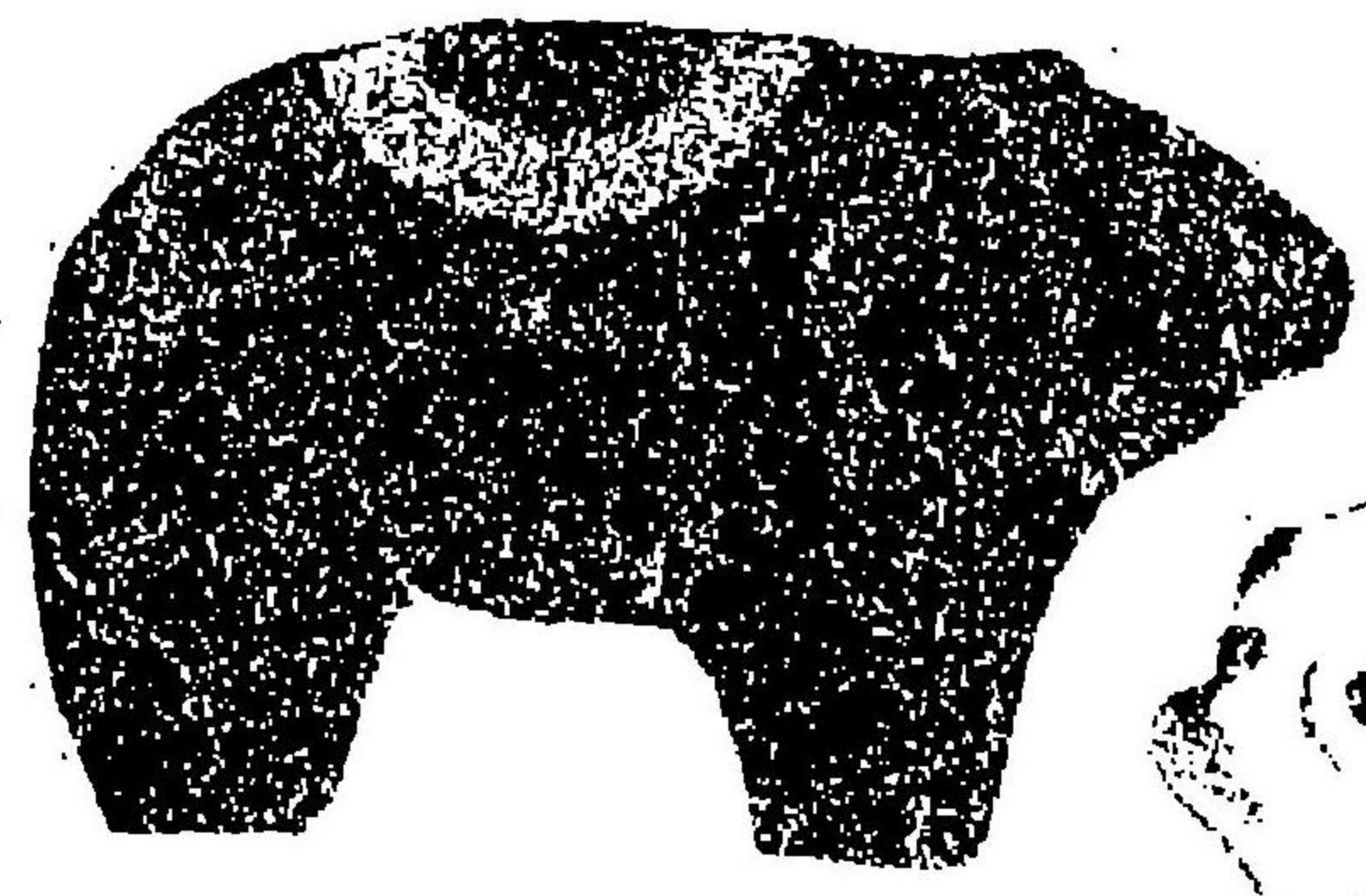




山崎のふし
山崎のふし
山崎のふし
山崎のふし



猪
猪
猪
猪



おぼろの
八幡天神

出羽の
おぼろ

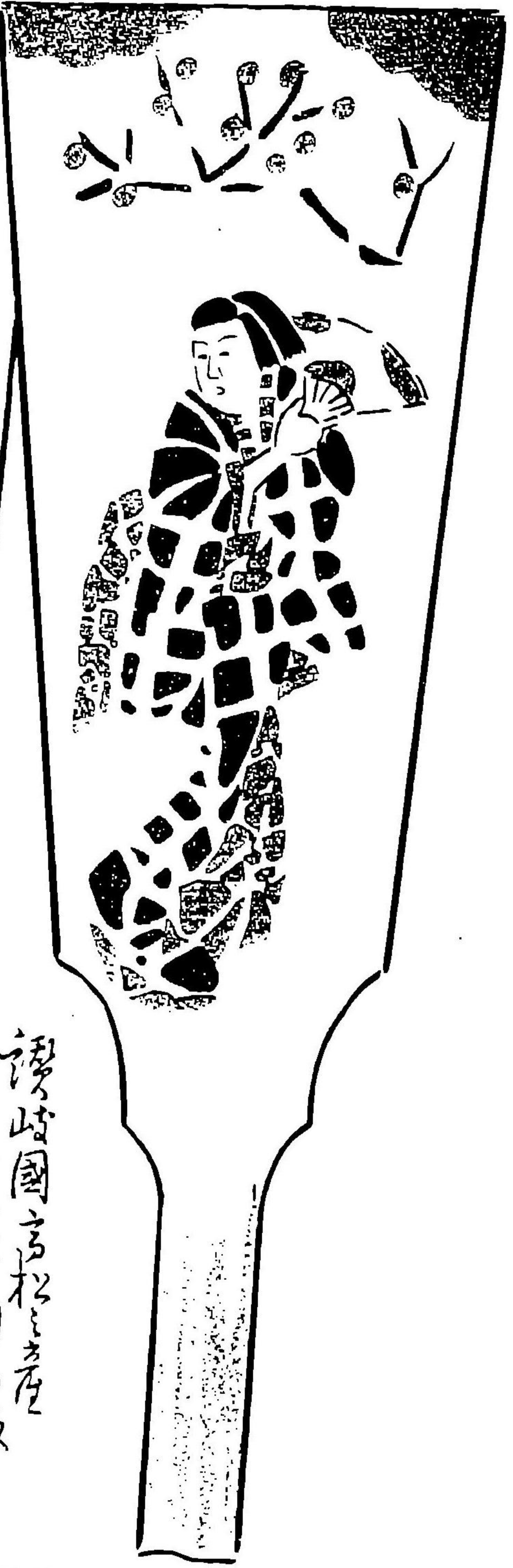


紀州の浦々大漁
 中好。改めたる
 子世に於ては
 其の如く

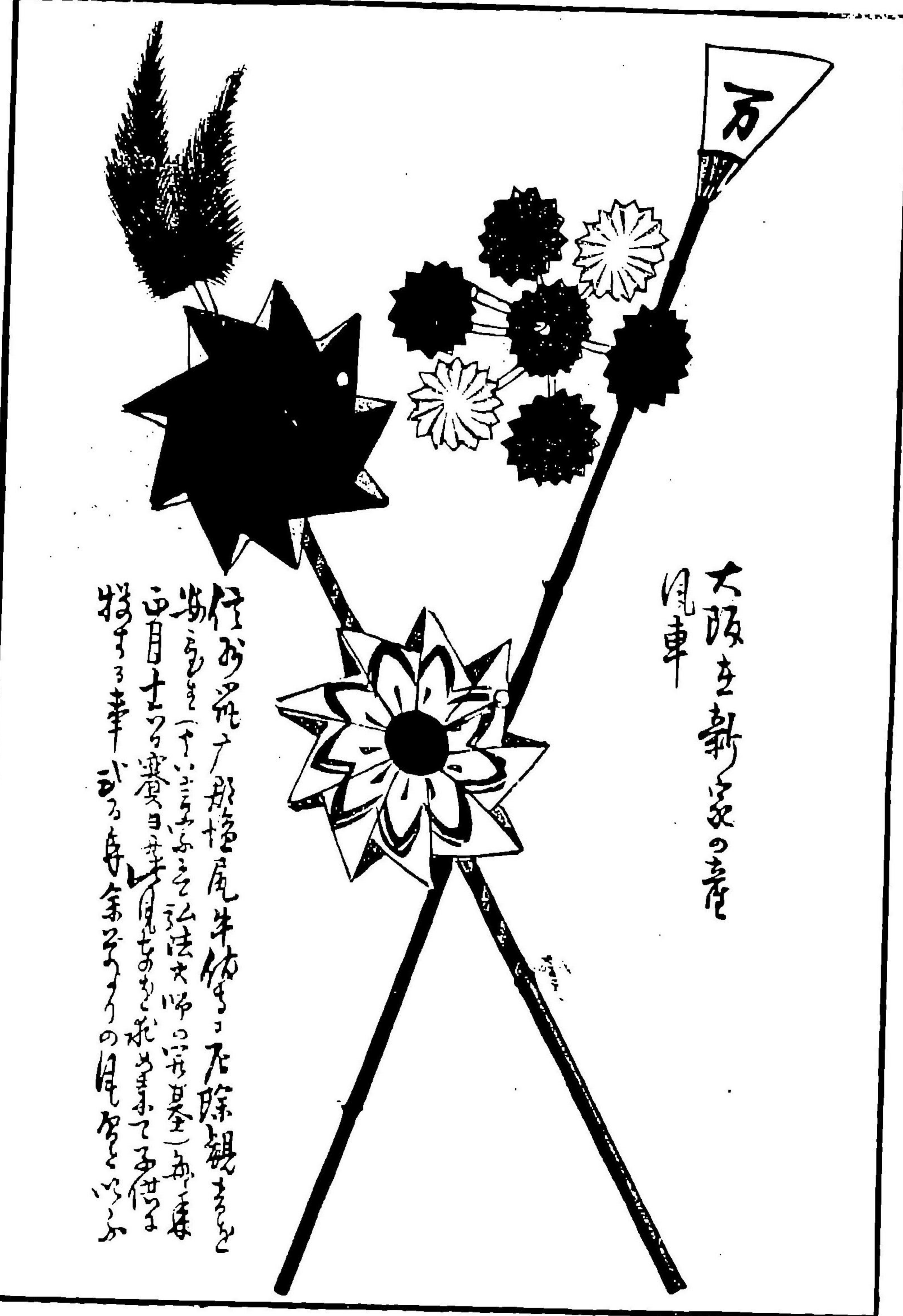


松津作
 清徳の書





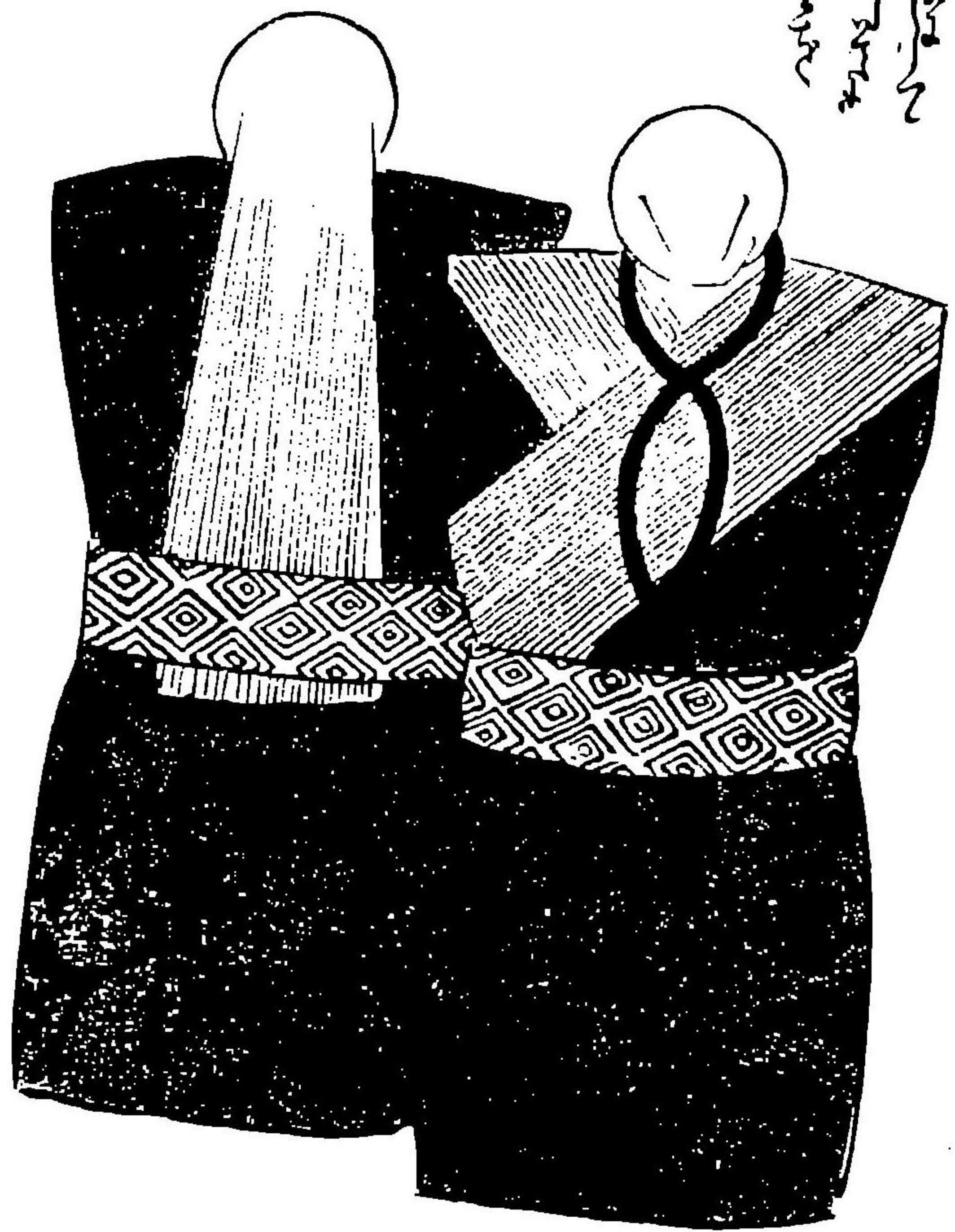
讃岐國高松とて
古着衣の羽子板



大坂を舞臺の幕
風車

任にお花の形格尾半依りて除親を
あはれに十一の月には大坂の舞臺に
正月十日の舞臺に花の形をとりて
持する幸なりとて余もその月を
あはれに

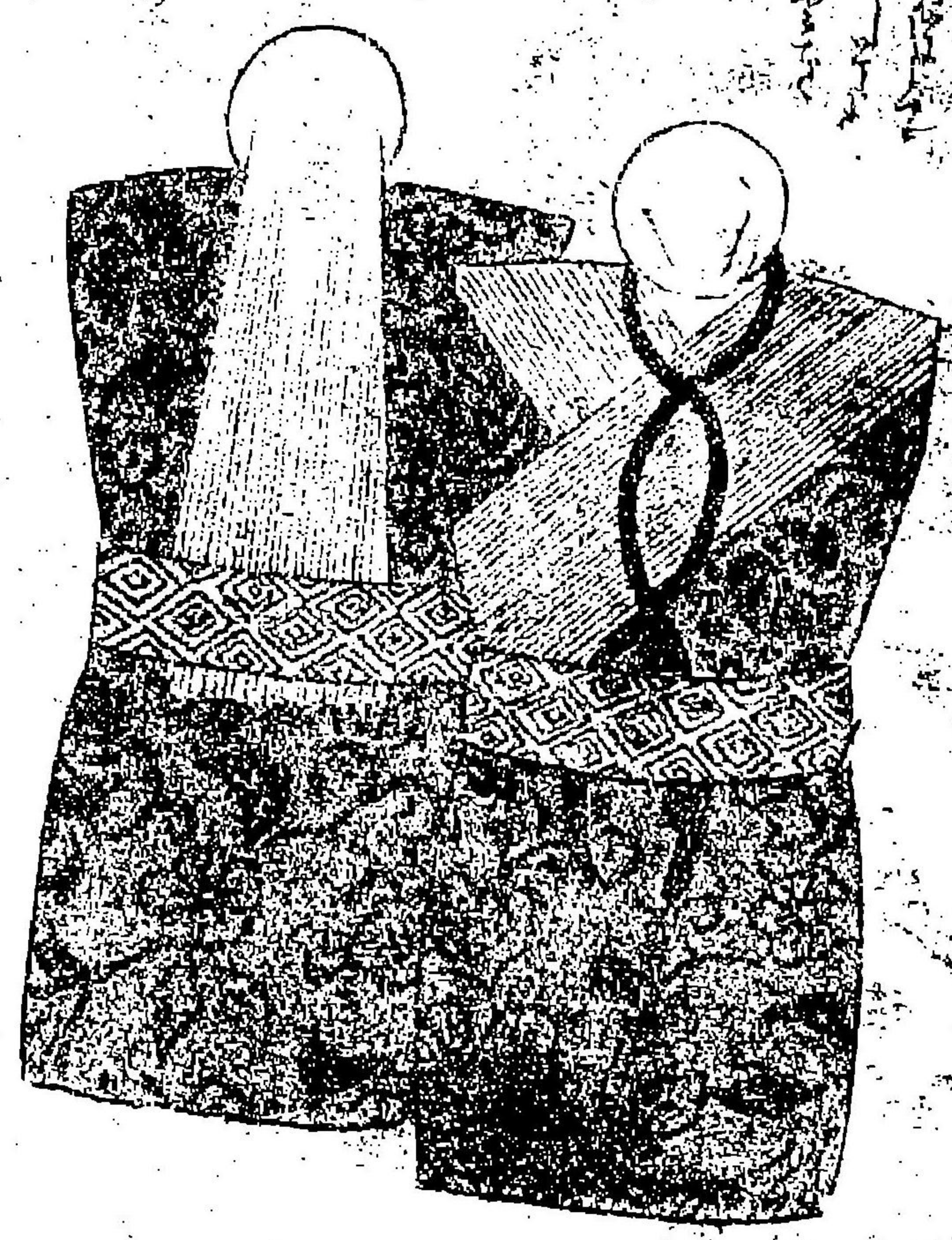
古衣琉球の飾
 男女共白の装束にて
 一目見分る飾り
 飾束を掛る事
 男飾とす



近世琉球の装束の圖のり



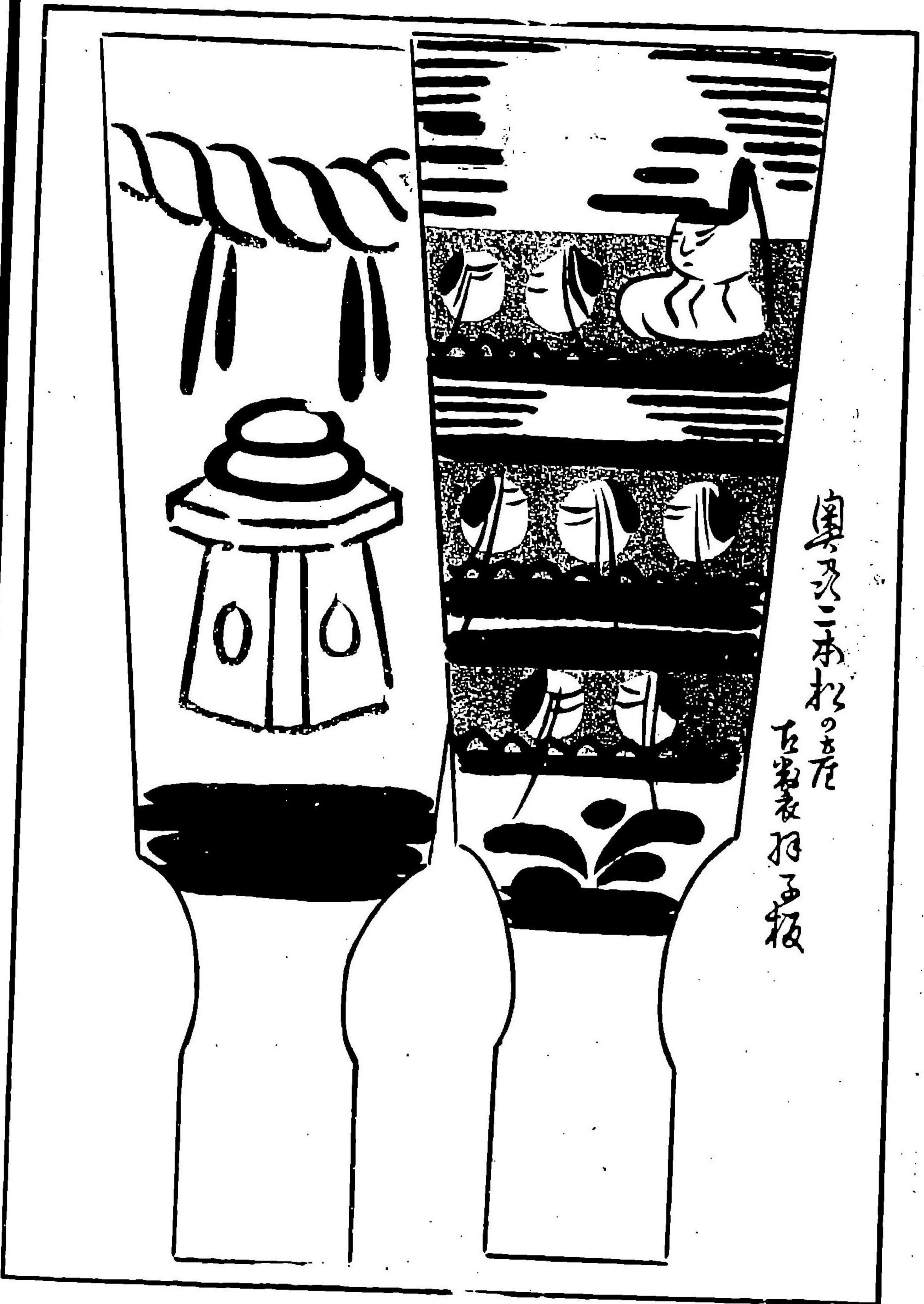
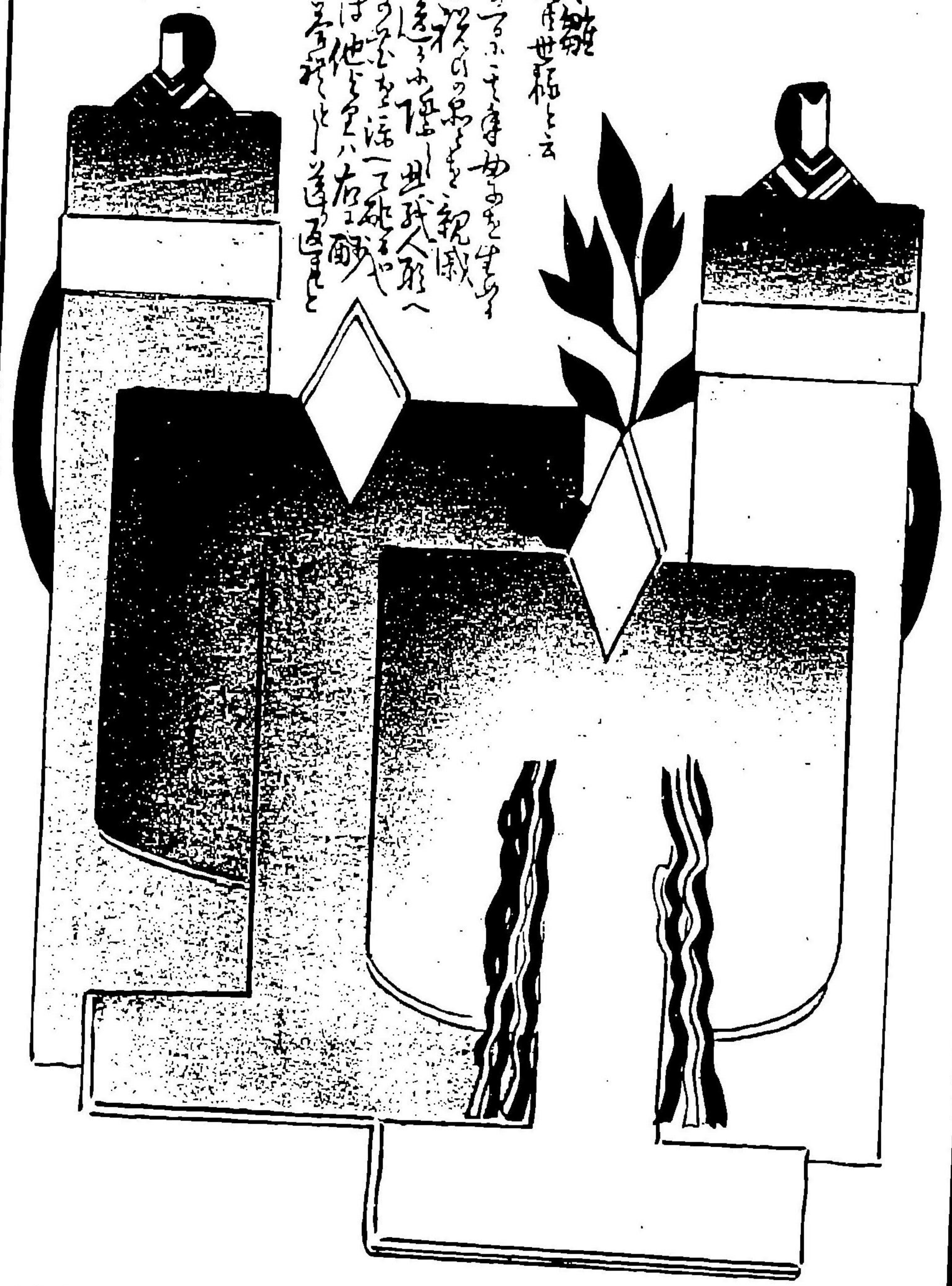
古製流球の籠
 男女とも同様の籠
 一昨日今更に
 錦を裁き
 男籠とす



近頃新衣と稱する唐の籠の籠



さめき
 姫世福と云
 旧八月の...
 マツグロ...
 中...



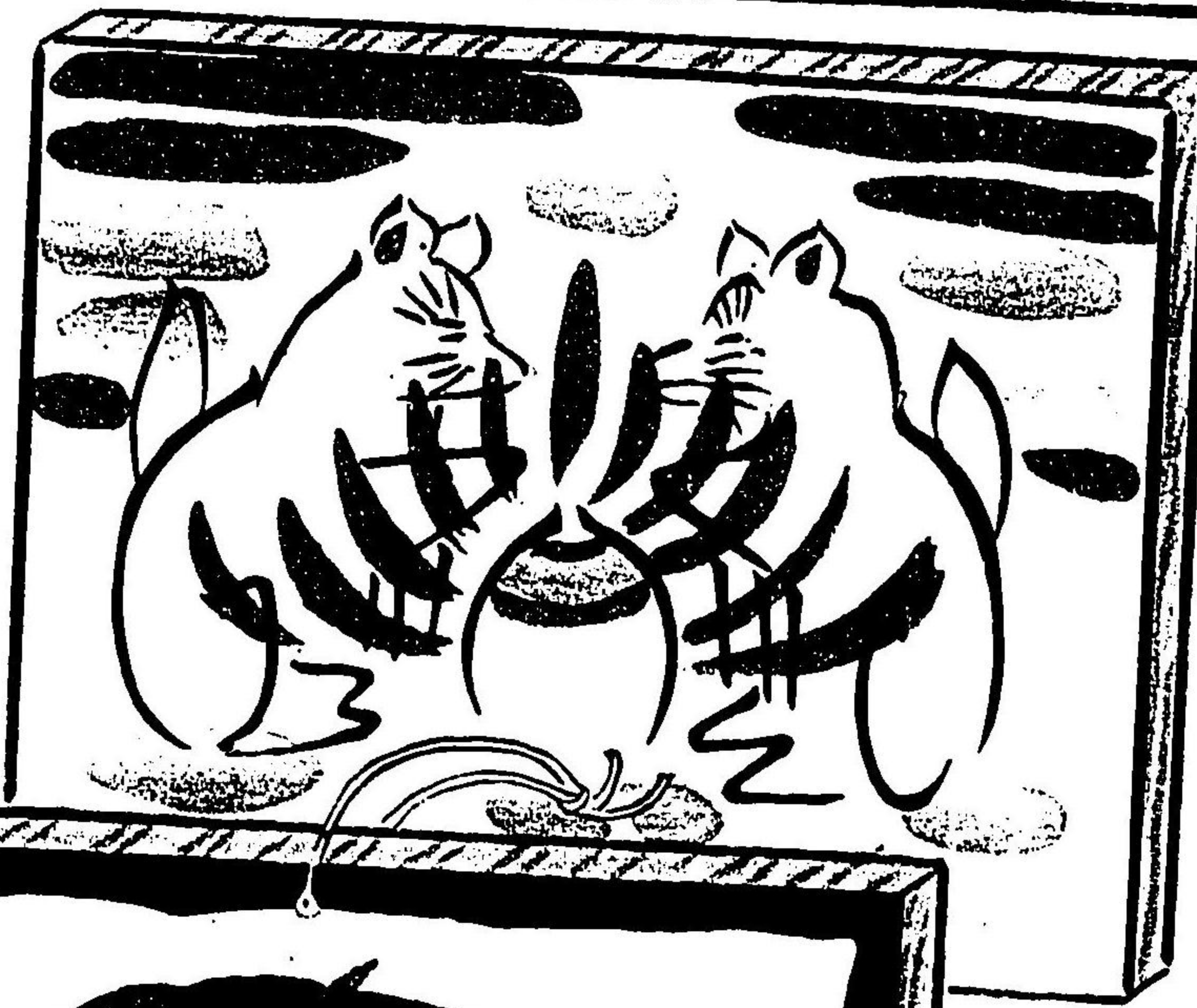
奥及二本松の五戸
 古岩表子板

狩衣雛子及び直衣雛子
 文政の頃より今迄了
 多岐多岐十代狩衣の如く
 修く福多き道なり云



古物衣裁後示
 三田道の子産羽子板

甲辰西山初智那甲府公室
 稻穂神社納編歌



大和志志と反地在方の神社と奉
 修る歌二程

圓顔才様年時江世故に申す
 の友もい名もい古くは
 公の御
 古くは我の道に未だ
 若きうと笑ふ海鏡
 題の御母
 此の格
 青の御
 うたの御
 切實の御
 若くは御

16
1437

著者權所

明治
五月
香
印刷發行

著者東京市神田區旅籠町
一丁目七番地○清水晴風○
發行兼印刷者京都市上京區
寺町通押小路北入廿五番戶
○書肆芸艸堂○山田直三郎

16

143

